

様式第3号

会 議 録

会 議 名	川西市総合計画審議会（第2回）		
事務局（担当課）	企画財政部政策室（政策担当）		
開催日時	平成19年9月3日（月）午後6時30分～9時		
開催場所	川西市役所 7階 大会議室		
出席者	委員	（別紙会議録に記載）	
	その他		
	事務局	（別紙会議録に記載）	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	5人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	（別紙会議次第のとおり）		
会議結果	（別紙会議録のとおり）		

平成19年度第2回川西市総合計画審議会 会議録

平成19年9月3日(月)

午後6時～午後9時

川西市役所7階 大会議室

出席委員

別紙出席者名簿のとおり

川西市

益満企画財政部長

(事務局)

本荘政策室長

大屋敷政策室主幹

石田政策室副主幹

金淵政策室副主幹

畑中政策室主査

(開会)

(会長あいさつ)

会長

- ・お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。
- ・第2回目ということで、第1回目の議論に基づいてということになりますが、審議会のスケジュールが当初と若干変わっておりますので、後ほど事務局から説明いたします。
- ・議事に入る前に、委員二人を御紹介させていただきます。前回御欠席のH委員、

それから、川西市社会福祉協議会の会長としてR前委員に替わられたI委員です。
それでは、一言ずつ、お願いします。

H委員

- ・ Hでございます。今回は、所用により失礼させていただきました。
- ・ 専門は一応、都市計画です。川西市との関わりは、一昨年とその前に、「郊外ニュータウン」について調査をさせていただきました。どうぞよろしくお願ひします。

I委員

- ・ 皆さん、こんばんは。社協から参りましたIでございます。
- ・ R前会長の後を受けまして、7月2日に就任をさせていただきました。
- ・ 行政の方は、税金だけでサービスを全部賄うということが大変困難になっております。その分を社会福祉協議会の方で行政と協力しながら、行政の手の届かないところ。あるいは、すき間をどう埋めていくか。コミュニティ、福祉コミュニティというのを幅広く世の中に張りめぐらせていく。そこで福祉に関してだれもが幸せだなと。こんなような福祉社会ができればいいなということで頑張っております。また、行政の方とも、まだまだ、話し合っていく必要があります、ボランティアとのいわゆる両輪でやっていくということになるかと思ひます。
- ・ 何かと皆様には御協力をお願いすると思ひますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

(議事)

会長

- ・ 今日、D委員がご欠席で、委員17名中、16名が出席されています。
- ・ 今日、大きく二つの議事について、皆さんに議論していただきたいと思ひます。

- ・一つは、審議会のスケジュールが第1回目に皆さんにお知らせしたものと少し変わってきているということです。その背景及び理由について事務局から説明していただきます。
- ・二つ目は、市民ワークショップが行われましたので、これらについて御紹介いただいて、皆さんにご議論いただきたいと思います。

(事務局からの資料確認)

事務局

- ・事前の資料送付が遅くなり申し訳ございませんでした。第1回目の会議録の中で、「委員」の字が間違っていました。大変申し訳ございませんでした。2ページの字の訂正をお願いいたします。

(後期基本計画策定スケジュールについて)

会長

- ・それでは、今日の二つの議題のまず第1番目、「後期基本計画策定スケジュール案」について、事務局から説明をしてください。

事務局

- ・事務局の大屋敷です。どうぞよろしく申し上げます。それでは、議事1の「後期基本計画策定スケジュール案」ということで御説明をさせていただきます。
- ・資料1をご覧いただきたいと思います。前回、第1回目の審議会でお示ししました案からの変更点ということでございます。
- ・主に原案の作成から、この審議会におけます審議に至る過程でありますとか、また、審議会の日程そのものにつきまして、全体的に見直しをさせていただいております。
- ・初めに、この審議会につきましては、全部で9回ということでは前回にお示しさせ

ていただいいたが、今回の案では10回ということで、1回開催回数を増やしています。

- ・原案作成から最終まで、ぎゅっと絞り込んだ形じゃなくて、つくり始める前にできるだけたくさんの御意見を頂戴したいということです。
- ・毎年実施しております市民実感調査でありますとか、後ほど御説明させていただきますが、7月にこの計画策定のためのワークショップというのを、テーマを絞って開催しておりますし、そういったことにつきましても委員の皆様方のお考えや感じ方、そういったものをできるだけお聞かせいただいた上で、原案作成につなげていきたいということから、この第2回目という設定をさせていただきました。
- ・実際、中身に入るまでもう1回、第3回目ということで設定もさせていただいております。このように、できるだけ事前にたくさんの御意見をいただきたいという思いから、ちょっと日程変更をかけさせていただいております。
- ・また、この総合計画の他に、行財政改革ということで、現在、審議会も開かれております。中期の財政収支計画ということで、これもまだ固まったものではございませんけれども、いわゆるこれらを一体とした形で行財政運営ということで行っているところでございます。
- ・前回のスケジュール案では具体的に見ていきますと、7月中を目途に策定の基本方針でありますとか、前期基本計画の達成状況、それから人口フレーム、これらの検討を行いまして、8月の下旬に第2回目の審議会を開催していただきまして、それらについてお諮りするという予定にしておりましたが、先ほど申しました総合計画、行財政改革、中期財政収支計画、これらを一体的に勘案した中で原案を作成して、この審議会にお諮りすべきであろうという考え方から内部協議をいたしまして、原案の審議につきましても、配布資料の図の一番下になります。11月以降にするのが得策であろうということから、開催時期

を前回9月中旬から10月中旬とさせていただいていたところですが、今回の案では11月に集中して御審議を賜りますよう、まことに勝手ではございますが、変更をさせていただいているところでます。

- ・また、10月に第3回目ということで、1回設けさせていただいておりますが、このときには前期基本計画の達成状況でありますとか、後期基本計画の策定方針、これらについて御審議をいただく予定としております。
- ・現在は、前期基本計画の達成状況につきまして、原課の方から報告をもらい、内部で内容について分析を行っているところでございます。
- ・また、行財政改革につきましても審議会をこれまで3回開催しており、中期財政の収支計画につきましても、見直しをかけている最中でございます。
- ・こうした動きがおおむね10月にはその方向性というのも固まってまいりますので、これらの中で前期基本計画の原案という形で御審議をいただくこうと考えております。
- ・したがいまして、パブリックコメントにつきましても、当初11月に実施の予定としておりましたけれども、1月ずらしまして12月に変更をしております。
- ・次に資料1の2枚目ですが、審議会の各回において御審議いただく内容ということで、一覧表にまとめさせていただいております。
- ・本日の第2回目につきましてはこの後、7月に開催いたしました後期基本計画の策定に向けたワークショップ「未来会議」の御報告をさせていただきまして、その後、前回お配りいたしました市民実感調査の報告書、これらをもとに後期基本計画の原案へ反映していくべき御意見、内容等について、御協議をいただきたいというふうに考えております。
- ・先ほど申しましたように、第3回目につきましては10月の中旬にかけて、そして第4回目以降につきましては、いよいよ中身に入っていくわけですがけれども、11月に集中的に開催していただくということで、基本的には1回につき1章ず

つ御審議いただくということで、その次の回には前回御協議いただいた章についての修正案という形で、あわせて行っていくという形で進めていただきたいというふうに考えております。

- ・最後の第10回目につきましては、平成20年1月に、総括ということで原案を策定してまいりたいというふうに考えております。

会長

- ・ありがとうございました。スケジュールが前回皆さんに紹介させていただいたものと変わっているわけですが、それにつきまして何か御質問、御意見ありましたらいただきたいと思います。

I 委員

- ・日程はいつごろ確定するのでしょうか。

事務局

- ・第3回目は10月の中旬ということですが、また、日程照会をさせていただきたいと思います。

A 委員

- ・前に少し倒すということは無理ですか。
- ・10月の下旬を使えるのであれば、1回目、2回目あたりは10月を利用して。でないとこれは結構きついかもしれない。

会長

- ・この11月にこれだけ集中させるのではなくて、もっと前ということですね。

事務局

- ・一応、11月1カ月間に矢印をくくっていますが、イメージとしては12月の上旬というのも含めています。

会長

- ・大体毎週1回というペースかな。皆さんよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

会長

- ・ 11月に入ったら大変ですけれども、皆さんどうぞよろしくお願いいたします。
- ・ それでは、第1番目につきましては、皆さんに御了承いただいたということで、第2番目のワークショップの開催結果についての説明をお聞きいただいて、どういふうにこれらを反映していくのかというようなことを御示唆いただければといういふうに思っております。それでは事務局の方からよろしくお願いいたします。

N委員

- ・ 議事録2ページの辞令交付のところで、私の名前が漏れてましたんで、追記の方をよろしくお願いいたします。

事務局

- ・ 本当に、申し訳ございません。

事務局

- ・ 事務局の畑中でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。それでは、資料2について御説明の方をさせていただきます。
- ・ 第1回目の審議会の際に御案内の方をさせていただきましたが、7月25日から28日の4日間で、後期基本計画に向けたワークショップ「笑顔・ときめき・未来会議」を開催させていただきました。
- ・ これは、後期基本計画を策定するに際しまして、より多くの市民の方に総合計画を知っていただきたいとか、より多くの市民の声を計画に反映させたい。また、一緒に川西のまちづくりについて考えていきたいという思いからでございます。
- ・ 送付しました資料2の方は、この未来会議の実施報告書の抜粋です。現在、最終校正中ございまして、この中から4日間のワークショップの方で出ました参加者の御意見であるとか感想などにつきまして、まとめた部分について抜粋したも

でございます。

- ・この4日間のワークショップの方ですが、この資料の1ページ目の中ほどに、共通のテーマとして「活かしたい、守っていきたい川西の魅力」ということで書いてございます。
- ・その中でも、その日によりまして、第1日目は、「子育て・教育」であるとか、2日目は、「退職後の生きがいづくり」など、特定のテーマにつきまして参加者の方々に議論の方をいただきました。各日とも約20名です。延べにして80名ほどの方に御参加いただきました。また、ワークショップの運営の方もNPO法人「市民事務局かわにし」に運営をお願いし、毎日、四つのグループに分かれて、特に「川西の良いところ」であるとか、それから「課題」「自分たちにどういったことができるか」ということを、そういう視点で意見交換の方をしていただいたところ です。
- ・既に資料の方をご覧いただけたかと思いますが、資料を一枚めくっていただきますとA3の縦判ですが、「笑顔、ときめき、未来だより」という名前をつけて、新聞のようなイメージでまとめてございます。これは、各グループの司会進行をNPOの方をお願いしたわけですが、この司会進行役の方に、当日の流れであるとか、グループワークの結果、あと講師の方の最後の講評について1枚ものにまとめていただきました。
- ・中ほどに四つほどカラーで各グループの意見の方がありますが、こちらの方は、ちょっと字が小さくて見にくいですが、この次のページから各グループごとに出た意見の方をまとめています。つまり、1日分として、A3が1枚と、A4の方が4枚ということで、その4日分を作成しております。
- ・それぞれの細かな意見につきましては、説明の方は省かせていただきますが、参加されました皆さんは、本当に川西の未来について熱く語っていただきました。積極的な御意見や、いろんな感想もいただいております。事務局としましても、

大変ありがたく思っております。

- ・今後、この報告書は、庁内の各所管の方にも配付いたしまして、皆さんからいただいた貴重な御意見を踏まえさせていただき、後期基本計画の原案を作成してまいりたいと思います。以上です。

会長

- ・えらいすっきりとした説明ですけれども、中身については特に何かこういうことがあったというようなことや、今回のこの総合計画にかかわって特に何か印象に残ったようなことはないですか。

事務局

- ・本当に皆さん、川西の魅力というところをたくさん出していただきまして、今回、間にNPOさんに司会進行役で入っていただいたおかげで、行政への要望ばかりというようなグループワークではなしに、どうやったらこの魅力をいろんな形に生かしていけるのか、その活動を今後どういうふうにつなげていったらいいのかだとか、そういう本当に前向きな御意見の方がたくさん出たという印象を受けております。
- ・すごく広範囲にわたるテーマでするので、今後これを事務局だけでなく、市役所の各部局の方にこの御意見をずっと浸透させてまいりまして、事務局だけで原案をつくるわけではございませんので、市役所全体でこれをもとにして、原案の方を作成していきたいと思っております。以上です。

会長

- ・これは拝見すると、まず最初に、第1日目のテーマは「子育て・教育」で御議論されたわけですね。
- ・それから2日目が「退職後の生きがいづくり」という風に、四つのテーマで議論されているわけですね。皆さん、目を通していただきましたか。
- ・この総合計画をつくる上で、当然のことながら我々の議論が大変重要になってく

るわけですがけれども、実際には、川西市民全員の意見を聞きつつということが本来でしょうけれども、これは現実的ではありませんので、こういう形でワークショップされたものを拝見しながら、市民代表として皆さんに、これについてご議論いただければと思います。

C 委員

- ・このワークショップに参加した人の年齢構成とかそういうのはどうなっているのですか。

事務局

- ・年齢構成は、最終のページですが、グラフが三つございまして、冊子の一番裏でございまして、参加者の年代ということでグラフの方がございます。
- ・やはり、60代の方が半分ぐらい占めております。20代から80代までの幅広い年代の方が来られたわけなんですけど、やはり50代、60代の方がたくさんいらしていただきました。

C 委員

- ・若い人が少ないですね。

会長

- ・しょうがないですね、やっぱりこういう、平日に行われていますから。

C 委員

- ・中学生とか小学生あたりから聞いてみてもおもしろい意見が出るんじゃないかなという気がするね。大人が既成の制度とかの中で考えるよりも、中学生とか小学生などからは、いろんな意見を聞けるものね。いわゆる将来を語るときに、そういう年寄りのがちがちの頭で物事を考えるよりも、そういうのもおもしろいかなという気がするのだけだね。

会長

- ・今おっしゃったように、時代を担う子供たちの意見というのはどこかで聞いてお

られるのですか。

事務局

- ・特に総合計画にかかってということではないのですが、従来から私どもの方で「子供議会」という形で、毎年1回ですけれども開催をさせていただいております。
- ・その中ではCさんがおっしゃいましたように小学生、中学生が、全員参加ではないのですけれども、学校代表みたいなことで意見を積極的におっしゃっていただいています。
- ・それこそ小学生、中学生が夢物語を語るという風なものではなくて、例えば、教育環境をどうしていくとか、本当に大人顔負けのといえますか、同等の問題意識を持った意見が多数出されているというのが実態でございます。

I 委員

- ・これは公募をなさったのだと思うのですが、どういう方が応募して、それからどれぐらいの、選考というのはおかしいですけど、選抜というか、どういう方を選んだのか。あるいは今、話題になっています年齢構成はどうであって、どういう選び方をしたのかということがわかれば。

事務局

- ・選考というよりは、お申し込みのあった方全員にご参加いただいております。

I 委員

- ・私も参加したのですけれど。感じたことを率直に申し上げますと、今、事務局の方から行政の陳情とかお願いばかりじゃなしに、積極的な前向きな意見が多かったということですが、私の目から見ると、まだまだ、こういう意見の中には、ばらつきがある。ばらつきというのは失礼ですけど、川西の現状の把握が、少しばらついているんじゃないかと。その上での御意見が目立つと。現実はどうじゃないと言いたいのですが、市民の公募で来られているから、余り言えないので

すけれど。

- ・例えば、こういったことをやる前に少しガイダンスをして、現在の川西市の状況はこうなっていると、そういう理解の上で御議論いただくということであれば、かなり意見が変わっていたのではないかと思いました。
- ・1例挙げると、宝塚に向けて道路をつくると。これは、依然として行政に対してもの申すとか、あるいは農地が空いているからそこを住民にもっと貸せと。勝手にあいているわけじゃないのですね。いろいろ事情があって空けたということもあるのですね。そういったことが、さも川西市民の代表の意見だということになれば、これは少し調整が必要じゃないかという意見が強くございました。
- ・また、夜間照明のあるスタジアムをつくるとか、そういった要望がまだまだ強い。それが決して悪いとは言いませんが、現状をよく把握した上での御意見であればそれはそれなりにいいのですけれど。やみくもに伊丹にあるじゃないかと、宝塚にあるじゃないかと、何でうちにはないのだとか、あるいは川西市の市の中心部に病院がないじゃないかとかね、いろんなことが出ていました。
- ・それは、市民の方の思いであるから、それはそれでいいのですけれど。もうちょっとよく理解をしていただいて、あるいはいろんな情報を提供した上での議論ということであればもっとよかったかなと思いました。

会長

- ・Iさんがおっしゃることは非常によくわかるというか、そうだと思うんですね。ただ、このワークショップの中身というか、やり方については、よく理解していませんけれども、市のそういう状況をすべて皆さんに紹介、説明した上で議論するというのも現実にはなかなか難しいところですよ。多分、こういうワークショップの場合は、今皆さんが何を思っているのかということをもっと多分拾い上げていて、それを整理された。ですからIさんが、おっしゃるように、我々は、今こういうふうにきれいに整理されているので、これを題材にして議論しましょう

ということになっていますけれども、決して代表意見ということではないというのは、我々が認識しておかなければならないのですね。

- ・それぞれの生活の中で、例えば、病院が市の真ん中に必要だという意見があったとしたら、それは財政状況とか、その他のことはすべて差しおいた市民の率直な願いということで、これを理解しておくということなのかもしれませんね。

I 委員

- ・もう一つ、ボランティアはどこへ行ったら情報があるのかと。そういう制度があるのかとかいう御意見もございました。
- ・これは社協の立場として、社協独自でも検討しているのですけれども、「にじ」とか、あるいは「川西市の福祉」とかいう冊子で、情報提供をやっているのだけでも、まだ徹底されてない。
- ・これは、もっともっとそういったことに対して徹底をしていかないという反省を内部でもしているところでございます。
- ・ただ、社協といいましても、例えば、福祉関係のボランティアは我々も得意なのですが、例えば、猪名川をきれいにするボランティアとか、いわゆる川西の空気をきれいにするボランティアとか、あるいは里山のボランティアになると、また、ちょっとこれ違うので、その辺の整理も必要じゃないかなと。全部ひっくるめてボランティアということにとらえておられると難しいかなと。

会長

- ・そのあたりについては、せっかくの資料ですので、四つのテーマに沿って少しずつ意見を伺いながらということにしたいと思いますので、また御発言いただければと思います。
- ・この個別の領域の議論に入る前に、全体として皆さんの方から何か、今のIさんのように、この性格についてコメントとか何か御意見があれば。

J 委員

- ・全体じゃないのですけれど、私も「子育て・教育」というテーマに、まとめのところだけ、ちょっと参加させていただいたのですけれど。内容はともかくとして、参加されている方の熱意というのですか。「私の意見を聞けば川西はもっとよくなる」という、そういう自信に満ちたおばちゃんたちがかなり多くて、やはり、何かもっともと言いつらなかつたという感じの印象を受けました。
- ・そういう方々が、これから多分、ほかのところできつとそういう熱意で、情報は行ってなくても、この熱意があるという形で、本当に素晴らしい人たちがまだまだいるのだなという思いがありました。

会長

- ・熱意とIさんのおっしゃる欠陥性というのが、うまく補い合えばいいのですけれど。しかし、それが、こういうワークショップのいいところというのですか、おもしろいところですので。

J 委員

- ・お互いに何が足りないかというのがわかりました。

会長

- ・そうですね。ほかに。どうぞ。

副会長

- ・この資料は、大体読ませていただいたのですが、個々のテーマに関する皆様の御意見は非常に共感できるところは多いのですが、まず、川西市の特徴みたいなことを皆さんで把握しておいた方がいいと思うのですね。
- ・例えば、川西市は、ちょっと変わっているというか、前提条件がですね、山間部と平野部が一緒になっておりまして。農地と住宅地が混在していますね。都市型と郊外型のライフスタイルが一緒になっているのですね。ニュータウンの方と何世代も前から、言い方は悪いのですが、土着の方も混在しておられるのですね。

- ・ニュータウン開発後に住み始めた方の子供が団塊の世代として、この参加者で60代の方が多かったというのも、開発後に住み始めてそのころに子供だった人が団塊の世代になり始めて、なんらかの形で貢献したいと思っている方がふえていくと思うのですね。
- ・それと、大阪府、兵庫県、京都府にも近いということで、出ていく方向もいろいろなのですね。だから、そういうふうな川西市の特徴というのを前提条件として把握しながら、こういうそれぞれのテーマを考えれば、より目標とか将来像を描きやすいのではないかと思います。
- ・このワークショップの参加された方が60代の方が多かったということと、先ほど申しましたように、やっぱり団塊の世代で何かしてもいいなと思っていらっしゃる方が多いというのはすごく共通していると思うのですね。ですから、そういう人のパワーをいかにいい方向に協力していただくかとか、何かしたいと思っていらっしゃる方のその生かし方を考えたらいいと思います。

C 委員

- ・先ほど、意見がなかなかまとまらないというような話もありましたけれど、自治会の人に聞いてみたら、多様化というようなことが盛んに言われる。高齢化、高齢化と言うけれども、超高齢化とか、体が非常に不自由な人とか、一つにまとめきれない、年齢では、まとめきれないような内容を含んでいるわけですね。
- ・先ほど、ニュータウンのこととか、土着の人とかということもありましたけれど、あまり、ひとまとめにできないと思うのですよ。だからある程度、分野の大きいところを幾つかに絞ってやっていくような方向にしないと、全部がそんなまとめきれないようなものじゃないと思う。
- ・私は多田グリーンハイツに住んでいますが、中の状況を聞いてみたら、本当にひとり暮らしで外にも行けないような人が結構いっぱいいるらしいです。
- ・それは年齢にかかわらず。だから、一概に年齢で高齢化とか少子化とかという

ことが言い切れない現状があるわけですね。そういう面で多様化というようなこと、そこら辺をある程度分類して考えていかないと対応できないんじゃないかなという気がしますね。

- ・ 結局、空き家とかそういうのがだんだん増えてきつつあるらしいですね。話をいろいろ聞いてみたら。二世帯住宅で子供を2階に住まわすとか、いろんなそういうことも最近はやってきているようですけども、そういう意見だけでまとめきれそうなことじゃないと思うんですね。
- ・ これ全体を一とおりに読ませてもらったけれども、確かに、60、70代の人の意見が多いですね。だから、将来を語るについては、やっぱり若い人の意見というのがもっと出ないと。
- ・ 良い悪いの判断ぐらいは経験的に言えるけども、もっと奇抜な発想というのは若い人でないと出てこない気がするね。だから、こういう意見を聞くとき、私はやっぱり若い人の意見というものを、もっと、どんどん聞いてほしいなという気がする。それで、年がいった人が経験を踏まえて、いろんな、これはいいんじゃないか、これは悪いんじゃないかという、老若のきちとしたものをつけていかないと、老人だけの意見で、いいとか悪いとかというのは、ちょっとまずいんじゃないかという気がしますけどね。

会長

- ・ これはあくまで素材で、この審議会のメンバーは、それこそ若い方から高齢というとなんですけれども、非常に年齢的には多様な皆さんで構成されていますし、そういう意味で、今のような、お話も含めて意見を出していただくと非常にありがたいと思います。
- ・ さて、皆さん進め方なんですけれども、全体のコメントは今いただいているんですけども、せっかく、こういう領域で分けられていますので、一つ一つ、少し読んでいただいた感想といただけますか、意見をやりとりしながら前に進めていきたい

と思いますけども、それでよろしいですか、皆さん。

(「異議なし」という声あり)

会長

- ・そうしましたら、「子育て・教育」のところから行きましょうか。読んでいただいた感想。これは全く自由に御発言いただいたら結構です。先ほどのように高齢の人の意見ばかりでは困るというようなことでも結構ですし、読んでいただいた感想などもどうぞ。

Q委員

- ・こちらの審議会のスケジュール案というのがありますけども、タイトなスケジュールになっていまして、効率的に会議を進めるためには、この四つのテーマを第1章からの分野にあてはめながら議論をしていけば良いのではないのでしょうか。

(健康福祉)

会長

- ・むしろ審議会のスケジュールを軸に見ていった方がいいんじゃないかと。そうですね。その方が我々にとって合理的ですね。
- ・それでは、Q先生の御意見、もっともと私も思いますので、まず、第1章の健康福祉のところから行きましょうか。健康福祉は、「退職後の生きがいづくり」ですね。ここから行きましょう。
- ・第2日目のテーマというところでは、健康福祉とぴたりと重なっているわけではないんですけども。
- ・皆さん、一応ざっと見ていただいていると思うんですね。必ずしも、ここの26日の議論だけではなくて、そのほかのところからもしていただいても結構です。

H委員

- ・前回の議論をちゃんと理解していないので、変なことを言うかもしれませんがけれども、この「退職後の生きがいづくり」、あるいは、「健康づくり」という視点

でワークショップの中身を見ると、こういった「退職後の生きがい」を直接考えられている、あるいは、活動をしようとされている層を三つぐらいに考えていると思います。

- ・一つは、間もなく退職するぞという人たち。あるいは、そういうことが意識に上り始めた人たちと言ってもいいかもしれません。具体的には加藤先生ぐらいの年ぐらいからかなと思います。
- ・それから、二つ目の層が今、実際に退職して活動の中心になっている人たち、いわゆる前期高齢者の元気な方々。65歳から70前半ぐらいまでの人たちですね。この人たちは実際のいろんな活動の担い手になっているはずなんですね。
- ・そして、3番目が後期高齢者。もう気持ちはまだまだあるんだけど、体が動かないというような人たちですね。そういった人たちが恐らくこのことについて、それぞれ一番すごく真剣に自分の問題として考えてられて、そして、それで恐らく一般的に言うと自分の元気な間は、いろいろお手伝いもしたいし、活動もしたいということを考えられる人ですね。
- ・そういう三つの層が、それ以下も当然関係あるんですけども、やはり、このテーマについては、その三つの層を中心に議論するという考え方がありますね。
- ・その層が今、川西市に一体どれぐらいのボリュームで、どの地域にどのように分布していて、それから、いわゆる退職後と言いますけれども、退職後と言ってしまえばサラリーマン層なんですけれども、そうじゃなくて、自営の方も、あるいは農業もおられるわけですね。だから、その辺の実態がどうなっていて、そして、そういうことが背景にまさに、このワークショップの結果というのは、これは事実として、60代以上の方が約7割ぐらいで構成されているワークショップの意見であるという、そういう事実があるわけですね。
- ・そういうところを踏まえて、一体どうなのかなということを、そういうふうに取りまとめる必要があるということです。

- ・それで、ざっと拝見すると、やはり、例えば希望やできること、この黄色で分かれているところが、一番重要ではないかな。市民の方々に、どのようにかかわっていただける可能性があるかというので、ここは、いろいろ重要なんですけれども、だから頑張ろうねとか、いろいろ交流したいとか、進めていくためにどうしたらいいとか、あるいは情報交換の場であったり、その組織をどうつくるか、自分たちはこうできるんじゃないか、あるいは新住民というか、ニュータウン住民と古くから住んでおられる方々との交流。言いかえるとサラリーマンリタイア層と自営の方たちの、そのあたりの関係性に注目した提案がたくさんあるんじゃないかなと思います。
- ・それから、もう一つは高齢化が進むニュータウンの空き家、空き店舗等々を一つの「退職後の生きがいづくり」のための拠点にしていく、いきたいというふうに私は読み取ったということです。

会長

- ・多分、この審議会の第4回目のところで、今、Hさんのおっしゃったさまざまなデータといたしますかね、現在の川西の状況について、事務局の方でもこれから御準備になるのだろうと思うんですけども、現時点ではといたしますか、今日のところはそういうきちとしたデータもありませんので、また、ワークショップへの皆さんの御意見を言っていたきながらというところにとめておきたいと思えます。

H委員

- ・それからもう一つは、リタイア間近ないしリタイア直後世代は、もう一度、地域のことを見直してみたいなというモチベーションが非常に高い人たちですよ。少なくともワークショップに来られているのは、絶対そういう人たちだと思いますので、だから地域の、とりわけこの「魅力・良いところ」の今まで見えてなかったけども、実はこんなことがあるんだということを、特にサラリーマンリタイ

ア層というのは地域情報に飢えてると言うとしかられますけども、もう一度見直したいという信念が非常に高い人たちだと思うので、例えば、そういう人たちには地域発見、再発見プログラムとかいうものをどんどん主体になっていただいて、お考えいただくというか、つくっていくという部分ですね。

- ・ 実は、退職後の1年ってどうしても地域に入っていくということとか、あるいは子供たちの面倒を見たいとか、高齢者のお世話をしたいとか、幾つか退職後の生きがいの柱みたいな、何となくあるじゃないですか、今のところちゃんと整理をしていませんけども、そういう柱はそれでいいんですけども、もっとあるんじゃないかというようなことについても議論する必要があるかもしれない。
- ・ どちらかというところ、どこの町にも出てくるようなよく似たテーマですので、川西の場合、「退職後の生きがいというのはこれだ」みたいな、共通するテーマプラスアルファがあると、川西に住んでるという実感がもっと持てるかもしれないですね。

会長

- ・ 今、NPOの皆さんなんかの活動で、地域の見直しというのは随分、日本中で進んでいると思うんですけども。それは、子供たちが地域をもう一度見直すというふうなことを含めて進められてますよね。
- ・ たまたまこの前に、東京の地域再生のビジネスモデルと言われているところでNPOの話が出てきました。地域の子供たちとNPOの人たちが地域に入っていて、それを子供たちが発見したことをネタにといいですか、核に自分たちで地域の劇をつくっていくという。大変すばらしい、見ていてちょっと感動ものだったんですけども。
- ・ その後ずっとシリーズでNPOの人たちとやっているんですね。そうすると、大人も知らなかったおもしろいことが地域の中にいっぱいあるということがわかってきますね。

- ・子供たちも非常に元気で、それこそ子供たちがお年寄りに話しかけるようになっていたりというようなことも起こってきますね。そういうふうなことが、川西の中に生まれ始めるとおもしろいという感じがします。

I 委員

- ・私は、自治会長もしているのですが。実際に川西の層は、我々が昭和40年代に来た人間で、70ちょっと過ぎたぐらいが一番多いんです。団塊の世代は意外に少ないのです。
- ・私が期待していたのは、そういったサラリーマンをやめた人はもっと地域でやってくれるだろうと思う。自治会に入ってきて、中心になってやってくれるだろうと、会社でばりばりやっていたじゃないかと思ったんだけど。
- ・例えば、カルチャーセンターとか、あるいは生涯学習の大学とか行くのは好きです。しかし、自分が自治会に入って、何かさあ犬猫のふんから、あるいは草取りから率先してやるというのは、これは意外と期待薄いというのが現状でございます。だからもっと魅力のある、そういう人たちがこぞって来るようなことをし向けていくことが必要です。
- ・私もヒマワリの畑を一反ほどつくりました。助けてくれたのは二、三人です。毎日、能勢口に来て、お勉強される方はいっぱいいらっしゃるけど、畑を開墾して、夏の暑いときにヒマワリ1,000本植えたんですけど。余り手伝ってくれませんが。花ができたなら皆カメラを持ってきて、ええなあと押すだけですけどね。現実にはそんなもんだということで。そういう、それでも、きれいだなと、なら「来年は参加するわ」と言ってもらえばいいかいなと思ってやってるんですけどね。
- ・まず、そういった方が参加できるような、向こうから進んで参加するんじゃないし、参加していただくような素地をつくるという条件づくりをしておくということが大事じゃないかと思うんです。

J 委員

- ・私もコミュニティと自治会とも兼ねていますので、全く同じ考えなんです。
- ・この前に、たまたま福祉関係の話し合いがありまして、60歳を越えた方が何人かいらっしゃって、やはり60歳から65歳というのは本当にもうだめなんですよ。あてにできない。というのは、年金の問題があるので、働かなくてはいけないという関係があるんですね。だから自治会どころではないと。コミュニティどころじゃないと。とりあえず、たまに遊びに行くんやったらええけどという感じで、だからやっぱりどうしても65歳以上ですね。老人クラブも65歳は、まだまだ、ヒヨコだと言われるぐあいの年齢で、80歳ぐらいにならないと役職がつかないというくらいらしいんですけど。
- ・だから案外、先ほどIさんも言われたように、退職してすぐに、さあ地区でと思ったら大間違いです。こっちは、いろんなことをするんですよ。コミュニティにも参画して、祭りをしてという風に。とにかく「来て、来て、来て」と。それでも来ない。それは本当に工夫が足りないと言われれば、そうなんだけど、やっぱり、ちょっと違うんですよ。生活的なものがやっぱり絡んでくる。だから、そういうことも踏まえてちょっと考えないといけない。
- ・レフネックという大学があるんですけど、これは結構、50代から60代の方に物すごい人気なんです、70代の方も。これを卒業された方は、活動はしたいが、行き場がないんです。だからこの卒業生を何とかしてゲットしたいなという思いがあるんです。何かボランティアをするというテーマでしたので、ボランティアをする何か連携をまずしていただく。
- ・こういうレフネック大学みたいな、ちょっとくすぐるような、プライドが高い方が多いので、そういうところをくすぐる大学的な、大学の偉い先生に来ていただいて、そこへ行って、卒業して、さあ何かしようというくらいだったらいいと思うんですよ。いきなりやりなさいというのは、それはちょっと無理やと思うし。

I 委員

- ・私もJさんと一緒に、その方たちをゲットしようとして、いろいろ一生懸命したんです。うちの近所にもいます。お勉強が好きなんです。ところがOB会をつくりまして、同窓会つくってやっているんですね。結局、行き場がなくて何をやるかという、「川西再発見」これをやってるんですね。あれがそうなんです。カメラを持って行って川西の写真を撮りまくって。これが川西だとやっているんですね。そういう場で自分の存在感を満足しているというのが多いですね。だから自分が町の苦情を引き受けて、あるいは、子供たちを連れてということは余り得意じゃないんです。

J 委員

- ・でも何かやりたいと言ってましたよ。何かコーディネーターする人がいないという感じで。ここまで行くんだけど、その後が続かない。

C 委員

- ・何か話の中心が、まあこれもそうだし、60歳いうたら22、3%でしょう。人口構成比から。
- ・今話題になるというのはどうしても高齢者の話ばかりです。高齢者が満足するとか、ボランティアとか。だけど高齢者といったら今22、3%でしょ。24年が25%になるというこの資料がありますよね。だから人口から言ったらそういう割合になっているわけですが、何か高齢者といえども仕事をしたいという。これもちょっとありますけど、仕事がまだしたいと。しかしどうしたらいいかわからない。それから自分自身の健康に注意するけど、人に何かをしてあげたいとか、役所に対して何かをしてあげたいとか。
- ・先ほどのNPOという、ここら辺の活動がやっぱり、もうちょっと活発化しないといけないと思うんだけど。いろんな老人といえども、退職してのびのびとやって趣味に生きる人とかいろんな多様性が出てくるわけですが。だからそういう人たちが活発に、何でもいいから活発に動ければ私は一番幸せだと思うん

ですよ。

- ・家の中に閉じこもっているよりも、活発に動けるということは仕事であろうが、よその人と話をするのであろうが、ボランティアでも何でもいいですよ。活発化するということが一番幸せにつながるんじゃないかという、これは高齢化をもちにやっぱり受け入れないとしようがないですよ。これは避けて通れませんか。だったら高齢化に対してどういう対応をするんだと、役所がどういう対応をとるんだと、我々がどういう対応をするんだと、ボランティアとかNPOがどういう活躍をするんだという。
- ・それから先ほどから出ていますけど、情報の伝達というのが必ずしも私はうまくいってないと思うんです。私らでも知らんことがいっぱいあります。だから例えば、多田グリーンハイツなんか、あんな山の中にいろんな散歩道がいっぱいあるんですよ。そんな看板一つ立ってないからわからないです。探し回って行って、こんなところにこんな道があるのかなと。そんなことでしょう。
- ・だから例えば、情報の伝達にしてもそれは新聞でやるのか、基本的にやられますけども、例えば、ダイエーとかイズミヤのように、人が一番集まる場所に大きな看板でも立たせてもらってそこでやるとか。人が集まる場所でやるとか、伝えるということを前提にしたら、何もペーパーだけじゃないと思うんですよ。そういう伝達方法とか、そういうものをもうちょっとやって、年寄りがこれは避けて通れないから、もっと活発に何でもええからとにかく体を動かすと。それが健康につながるんだというような、何かそういう余り形に入れてやるとかやらんとかという議論は、私は必ずしも幸せにつながらないという気がしますけどね。

会長

- ・やっぱり社会全体が今おっしゃったように選択肢をいっぱい持っているというんですかね。働くという選択肢が非常に重要だと思うんですよ。決してまだそれ

だけでもない。NPOもあればということもあるし、子供の見守りのこともあるし。多様なことをやろうと思うとちゃんとそういう取っかかりが埋め込まれているということが多分大事だと思います。

N 委員

- ・情けない20代、30代の青年を代表して。私も社会福祉協議会の評議委員を5年前からずっとさせていただいていると、本当にどこに行っても最年少の年代であります。みんなやっぱり仕事、自分の家庭と仕事で手いっぱい、なかなか自分の町とか、人のために動けないという、貧しいという失礼なんですけど、そういう方が本当に多いというのが今現状じゃないかなというふうに私自身が思っています。
- ・私は裕福ではないんですけど。私も猪名川町に住んでいるんですけど、この川西が大好きでして、何とか町のためにしたいという思いで、ずっとボランティア活動も今まで14年間させていただきました。そういった意味でも、いかに20代、30代にこの思いを伝えるのかなというのが、本当に今後の一番の重要な課題と思っております。いずれ私も20年後、退職の世代を迎えますから、そういったときに急に自分の身の置きどころを思いついたところで、将来、今から準備をするべき20年という年月を持っていますので、そういう若い者にいかに浸透させるかという今後の課題になると思っております。

E 委員

- ・先ほど川西の地域性をまず見てという話があったんですけども、私が思うには地域性というのはもちろん当然の話なんですけども、全国的に多分言えると思うのは、先ほどの団塊の世代のお話じゃないですけども、今退職された方が今まで育ってきた生活環境と、それは恐らく私がすばらしい人にめぐり会えてないからかもしれませんけども、我々は、もう30代ですけども、与えられたものだけでずっと生活されていた環境の方と、我々が、まさに自分たちでそれをつくって

かないと生活できない環境にあるんですよ。30代全員がそうかというわけりませんけども、それまでの私の努力が足らなかったから、今苦労しているのかもしれないんですけども。

- ・今言いました世代の方が決して悪いだとか、要らないとか、そういうことは当然ないんですが、そういう方たちの意見をどれくらい取り入れる必要があるのかなというのが、正直思ってたんですけども。
- ・じゃあ、何年後を見つめてまちづくりをしていくのかということですかね。主体的にどれぐらいの世代の人がこれからやっぱり動いていかれるのかなあ。その辺が大事なのかなと思います。
- ・あと、この冊子でちょっとだけ気になるところがあるんですけども、総合的に書かれていることは、最後のやっぱり「まちづくり」「まちの魅力、活気」という部分ですね。

会長

- ・総論かつまとめなんですよ。

N委員

- ・ですかね。こういったところに魅力ある部分という意味合いで書かれてるんだと思うんですけども、果たして阪神高速の高架の下にある「ドラゴンランド」が魅力的なのかなというのがちょっと気になったんですが。
- ・いいなと思ったのは、この最後の黄色の右に下に書かれている真ん中辺に、行政には困っていることをどんどん出してもらおうという。これは人に理解してもらおうというのは、まずは自分を全面的に出すことというのが大事だと思うので、行政サイドとしても、このことが必要かなと思いました。

会長

- ・ありがとうございます。この世代というより、Hさんが先ほど言ったと思うけども、そういう関係づくりというんですかね、いろんな世代の人、いろんな人がど

ういうふうに結びつきを持っていくのかというのが多分、こういうまちづくりの中で大事なのではないですかね。

- ・だから、ある特定の人たちがグループをつくって、圧力団体のようなことになるのではなくて、この審議会のように、いろんな人がいろんな場で意見を戦わせられるそういう場といいますか、そのあたりが一番重要ではないかと思います。

P 委員

- ・この「退職後の生きがいづくり」の一番最初のところに身近なつき合いというのがあるんですけど、自分の場合は、やっぱり会社勤めをしていて、いざ退職すると、やはり先ほどから拳がっているレフネックですかね、そういうとこでまず行くというところから始めまして、まさに近所、やっぱりお母さん同士は結構仲よくても、お父さん同士というのは余りつき合いがなくて、こういう共通の話題があるところに行って、やっぱり知り合いの人をつくって、それがボランティアにまでつながるかとか、地域の方につながるかというのは別として、まず、地域で知ってる人をつくるというのが、すごい大切なことだなということを感じてまして。
- ・それで、私の住んでいるところは違うところなんですけど、地域の掃除とかそういうのも、やっぱり近所のだれか知っている人が行くというなら、みんなで行こうかというので参加しやすいんですけど、近所の方が、見ててもご夫婦だけのとことか、やっぱり、なかなかつき合いがないとことというのは、参加しにくいということとで、長い目を見て、そういうのをどんどん参加していきやすいような仕組みとか、自治会とかも来やすいような雰囲気をつくることというのは非常に大切なのかなというふうに感じているんですけど。

I 委員

- ・今の話の関係なんですけど、私のところは年5回か6回、公園の掃除をします。公園の掃除は、手を動かすと同時に口も動かしましょうという。子供たちも参加させるんです。参加したら御褒美をあげる。本当にまだ三つぐらいの子から小学

校や中学校の子まで参加しています。そういうことが世代を超えたおつき合いになるのかなと。

会長

- ・大事な場なんでしょうね。

I 委員

- ・そうなんですよ。

会長

- ・そういうところに定年退職後の男性がいかにもうまく滑り込めるのか。

P 委員

- ・ふだん、知っている人がいないとなかなか行けないと思うんですよね。

C 委員

- ・確かに私は、多田グリーンハイツですけども、やっぱり日にちを決めて、全員が外に出て掃除するとか、そういう日にちを決めてますけどね。そのときは、やっぱり近所が出たら皆出ますよね。だからそういうぐあいに日にちを決めて、全員が参加するという格好ですね。

G 委員

- ・最初は無理やりでもとにかく引っ張り出すという。

C 委員

- ・そうそう、日にちを決めとけば、年何回か決まっていますよね。草むしりから何かから全部やるんですね。公園は全部。それから、公園だって子供のための公園なのか、大人のための公園なのか。草ぼうぼうの公園があるかと思ったら、きれいな花を植えて、朝晩、水をやっている公園もあるし、これはだれのための公園のかなとこういうのがあるんだけどね。いろんな意見も出てますよね。
- ・それと私が一番大事なのは、先ほどもちょっと、いろいろ子供さんを参加させるという話が出てますが、学校が最近生徒が減って出てきているということを知

くんですけど。だからそういう空き教室を大人が利用できるような、部分的にですよ。そこへ老人大学みたいなものをつくるとか。それでやっぱり老人の腰の曲がった人が、小学校の近辺をうろうろして、それを生徒がそういう姿を見て、やっぱり自分の将来は腰が曲がることもあるんだとか、見て育つとか。

- ・それが自治会館が町のど真ん中であって、学校はこっちであって、人の交流どころか何もありませんね。そういう建て方になっているんです。点と点になっとるから、線につながってないんですね。だからやっぱりそういう学校を中心としたまちづくりというんですか、コミュニティとか何だかんだとか、いろいろ言いますが、やっぱり人がしないと、人が別々に離れて、自治会館は全然離れたところにある、病院だって離れたところにある。
- ・それだったら、そこを核にしてまちづくりをやっていくとか、計画性を持ってやっていかないと、やっぱり核家族とよく言われますけども、やはり学校を中心として、通学の時間帯に大人が出てやってますけども、それだって非常に子供にしたら、楽しい場なんですよ。本当は学校に腰の曲がった人とか、もう歩けるか歩けない、手を引いて歩けるような人でも学校に集まってくるような、何かそういう学校の近辺でもいいんですけども。
- ・これにも学校の空き教室というのが載ってるんですけども、そういう空き教室の利用なんていうのをやっぱり考えていかないと、学校は学校、自治会館は自治会館、催し場はこっち、大人はこっち、子供はこっちというには、全然交流どころか。
- ・先ほど子供と一緒にそういう草取りをするなんてのは、非常に大事なことだと思いますね。そういうのが学校を中心に、もうちょっと具体的に線と線で結ぶ、点じゃなしにそういうことをきちっとしていかないと、コミュニティ、コミュニティというたって、つくられたようなコミュニティなんていうのでは、私はだめだと思うんです。ごく自然に、腰が曲がった人がおったら、手を引いてあげましょ

うか、おばあさん、階段を上がれますかとか、そういう優しい気持ちができるようなことにならないとだめじゃないかな。だから教育についても親の意見ばかりですよ、出てるのは。教育されるのは子供ですけど、子供の意見なんか全くないです。

(教育文化)

会長

- ・今、もう教育の方にお話が行きましたので、時間もあれですので、せっかくですから第2章の教育文化のところに話を進めましょうか。皆さん、せっかくですから言いたいことを言ってください。

A 委員

- ・教育も含めてですけど、先ほどお話が出ましたけども、今、高齢者の方の参加が学校を中心としてというお話の中にですね、学校安全協力員制度というのが教育委員会の中で行われている子供の見守り安全ということですね。これは既に実施されて、非常に高齢者の方の参加率が高いんですよ。うまく学校の中にその地域の力を導入していくという施策が成功していっているのではないかなと思っています。
- ・僕はPTAの代表をやっておりますので、なおかつ、コミュニティの役員も、自治会の役員もすべて兼ねておりますので、いろんな部分から見ていくに当たって、高齢の方々に必要なことは、文化がやっぱり一番出ていきやすい文言じゃないかなというふうに思ってます。教育ももちろんですよ。教育もいいですけども、文化という部分でくくっていった方が本当にその人たちはそれぞれの趣味においてということでも、非常に出ていきやすい環境ができ上がるんじゃないかなと思っています。
- ・例えば公園という、公園を掃除をするというふうに言うと非常にちょっと抵抗が

ある。でもお花を植えてきれいな花畑をつくっていく。この発想は多分文化的な発想だなと思うんですね。きれいにするというのはいいんですけども、そうじゃなくて、どこかそこに趣味的なものを一つ加えていくことによって、非常にハードルが低くなっていく。そういったことをやっていくと、非常に絡め手というのはしやすいと思います。

- ・ 僕、自治会の役員をやってて、僕の住んでいるところは中心部です。みつなかホールという音楽ホールの後ろにあるマンションの自治会の役員をやっています。非常に都心部で高層マンション、なかなか自治会というものが成立しにくい状況にある中で、自治会員約600名の加入があって、高齢者の方、また団塊の世代の方が非常に多いものなので、うまく多分、融合できている自治会なんです。
- ・ なぜうまくいってるのかなと思うと、絡め手はやっぱり文化的なもの和孩子です。この二つは大きなキーワードだと思います。その文化という部分は、幸いにも前に音楽ホールがあります。その音楽ホールの部屋を自治会の拠点として借りて、そこで例えば、市の吹奏楽団を呼んで来て、自治会の方々に聞かせてあげるとか、もしくはその中に住んでる方でギターの弾ける人にそこで弾いてもらってみんなで聞くとか、その後、会食をしましょうと。そういう催しをすると非常に参加率が高い。200人、300人の人が来られます。

会長

- ・ どんな方が来られます。

A 委員

- ・ いろんな年代の方が来られます。

会長

- ・ そうですか、それはいいですね。

A 委員

- ・ 吹奏楽をじゃあみんなで聞きましょうよ。うちの自治会員だけ特別ですよという

形を演出してあげると、非常にくすぐった状態が出てこられます。子供たちは当然聞いたことがない。じゃあお父さん、お母さんに連れられてやってきます。当然帰っていくときには、ちゃんとお寿司がセットで、こういう仕掛けの最後はみんなで会食をしましょうと。で会食をするんです。こういう仕掛けをうまく利用していくと、実は高齢者の方も、親世代が来るし、子供も来るし、見事に3世代がうまく出てくる。

- ・もちつきをやると、当然、もちつきというのは来ます。お年寄りの方は、もちはつけないけども、おばあちゃんなんかは、もちのもみ方を子供に教えてくれる。そういう仕掛けを一つ設けていっておはぎをつくってみたり、やっぱり仕掛けづくりが非常にポイントやろなと思います。
- ・それぞれの地域で結構そういうことはされています。皆さんが知らないだけで、というのは非常に多いんですね。だからうまく情報の共有というのはやっぱりどこかでしっかり図っていく必要はやっぱり川西はあるやろなと思うんです。
- ・最近、広報紙が少し川西は変わってきましたから、あの辺の情報の発信はうまくいってるなと。今回はシルバーですかね、シルバーの登録をしませんかと、みんな働きますかというシルバー世代に対する働きかけが今回中心としてされました。ああいう問いかけのやり方というのは非常に政策としてはいいと思うんですね。
- ・ただ、じゃあ全市的にやるのかということと、それぞれの地域でやるのかというのは少し分けてやっていくと。じゃあ、ここに住んでいる人たちはここで頑張りませんか。というようなそういうやり方も、また一つ地域に戻っていくという、出ていくところは大きなところへ出ていくんだけど、実は活動するのは非常に身近な場所で活動しましょうよ。というような仕組みをうまくつくっていけばいいのかなと。

会長

・そういう全体をプロデュースする人、キーマンが要りますね。

A 委員

・キーマンが絶対に要ると思うね。コミュニティもしかりだと思うんですね。うまく求心できる人がいれば、実はうまく60代の人もゲットできるんです。

会長

・川西各地にAさん人形がいればいいですね。

C 委員

・多田グリーンハイツなんかでも祭りがあるんですよ。祭りがあって、やっぱり司会者が要るんですよ。何年か前は司会者でも下手くそでね、何か聞いておっても全然おもしろくないんですけどね、今年なんかは、非常に上手な司会者がいまして、間をとって音楽を流して、非常にうまくつなげたですね。そうなってくると聞いておっても楽しいし。だから、これどうするという話も出てますけど、確かにそういうことは、これから大事ですよ。そんな感じがしましたね。

副会長

・会長がおっしゃった仕掛けの埋め込みと、それをリードしていく人、人材ということですね。

A 委員

・人がね、やっぱりキーは人になってくるかなと思いますね。だからどこで発掘するかですね。発掘する場所が問題ですね。

G 委員

・今言われたように、先ほどIさんとかも言われてたように、やりたい人はたくさん多分いてはると思うんですけども、リーダーづくりということで、青年会議所なんかはリーダーによっていろんな事業をやってるんですけども。

・川西の場合、例えば川をきれいにしたい。そういう団体をつくりたい。NPO法人をつくりたいと。それをサポートしてくれるところというのは、川西にはあ

るんですかね。市の方。

事務局

- ・今、市民活動センターがございますので、そちらの方で、例えばNPOのいわゆるつくり方をどうするとか、連続的に講座なんかもやっております。

G委員

- ・それなんですけど、本当に親身になって、その方が来られて、例えば、川西市役所の中にNPO法人を立ち上げるためのサポートをしてくれるところもあるんですか。そのまま伊丹に振られたりとか、県庁に振られたりとか、川西市にはそういうところがないんで、そっちへ行ってくださいということはないんですか。

事務局

- ・あくまでもそこでは一般的な指導みたいなところで終わりますんで、そこからは、そのグループの方が動いていただくということになるかと思うんですけど。

G委員

- ・だけど、それは僕ちょっと聞いたんですけども、NPO法人をつくりたいと、どうしたらいいのかと、だったら一度ちょっと勉強しようかという話になったんですけども、伊丹の方に行ってくださいということで、伊丹にサポートセンターがあって、川西のNPO法人は伊丹のサポートセンターにほとんど行ってたというふうに聞いたんです。

C委員

- ・それはいかんね。

G委員

- ・それはいい悪いじゃないんですけども、もし、そういうことをもっとサポートしてあげて、例えば、Iさんが空いてる土地にチューリップじゃない、ヒマワリを植えたいと。ヒマワリを植える団体をつくりたいと。そうなった場合に何らかのサポートができたり、今、市場化テストというのが川西でもやられていると思う

んですけども、小さい公園を運営していくのに何々という団体をつくりたいとか、自転車置き場を管理する団体を、もしシルバーの方たちでつくりたいのであれば、こういうふうにしていったらいいんですよというのをやっぱり積極的にサポートされて、市民、今、若い、いろんなバイトだけで生活している人たちにこういう仕事を、与えていくのではないんですけども、何かをつくりたいという若者がいれば、それを積極的にサポートしてあげると、そういうところがあれば、今、言うてる地域のリーダーというのが育つんじゃないかなというふうに思うんですけどね。自分自身も勉強して行って、例えば、川をきれいにしたりとか、今、〇所長がアユ釣りが好きなんで猪名川にアユを返したいとか、例えば、アユを返すという団体をつくりたい場合にどうしたらいいか、そういうことを積極的にサポートできるようなところがあれば、もっともっと地域のリーダーが育っていくんじゃないかなというふうに思うんですけどね。青年会議所なんかも一生懸命やっってはるんで、そこから次の世代の20代、30代の人たちに、こうすればこういうことができるんだよということも協力しながらやっていきたいと思っています。

会長

- ・ Gさんの話は多分最後の自治体経営のところとも関わってくると思うんですけどね、自治体そのものは多分、総合計画を同時に執行している財政審議会ですか、行財政審議会ですか、今のところを多分議論されているところだと思いますけれども、全体の市場化の動きの中で公民連携。ですから連携する相手は大きいところはPFIとか企業なんですけれども、実際には生活にかかわるところはやっぱりNPOとか市民グループが、どう連携できるのかという大変重要なこれからの課題になると思います。そのあたりどこまで行政がサポートするのか、あるいは今、GさんのおっしゃったようなこともNPOがやっているとか、そのあたりは、なかなか答えは一つではないと思いますけども。重要なポイントなんです。

C 委員

- ・だからNPOは、いわゆる川西市役所としてはどういう位置づけで考えておられるんですか。

事務局

- ・基本的にNPO法人については、役所がつくれと、当然そういう性格のものではなくて、あくまでも住民の皆さんから、こういう公益的な活動をしたいのでNPOという法人をつくりたいという自立的なものですよね。
- ・ただし、これからの私たちのまちづくりの中で行政だけでまちづくりは、できようはずもありませんので、そのNPOのみならず、ボランティアの皆さん、あるいは個人の市民の皆さん、いろんな形で今議論いただいているようなまちづくりに何か貢献したい、あるいは寄与したいという思いをいっぱいお持ちの方がいらっしゃると思いますので、そういう方たちとともにまちづくりをしていこうと。
- ・その中でNPOというのも大切な存在でありますから、今御意見ありましたように、市民活動センターなんかで法人化するときの手續なり、中身については、Gさんは伊丹に振られたとおっしゃいましたけど、私の認識ではNPO法人事務局「市民事務局かわにし」がその委託を受けて、その業務に当たっているというふうに理解をいたしております。

C 委員

- ・やっぱりそこで位置づけを、市民といわゆる役所ですね。市民と公ですね、その中間にNPOとかそういうものがあると。いわゆる実施の機関みたいなものですよ。
- ・だから役所が金かけて何でもやるという時代はもう過ぎたと思うんですよね。ましてや、高齢者がこれだけ多くなってきたら、やはり高齢者のそういう手助けというんですか、何らかの形で、それは若い人も含めてですけども、何らかの形で金のかからん方法で達成していくということがこれから大事になってくると思うんです。

- ・だから、やはり市民と公と中間的な存在だと私は思うんです。そういうものを役所が育てていかないと、これから何をしたい、あれをしたい、金がないからできません、それでは進まんと思いますよね。だからやはり市民にその自発的なものということだけを期待するだけじゃなしに、やはり役所がどこまでそういうものが動きやすくできるのかということをはっきり、やっぱり認識してもらって。
- ・私も多田グリーンハイツで聞いたら、やっぱりリーダーが不足しているということ、そういう意見を聞きました。そのリーダーが不足しているということは、やはり今ドングリの背比べでいろんな意見があるんだけど、やっぱりそういう意見を引っ張っていくとか、まとめていくとかという人が不足してますということは聞きました、自治会の人とかいろんな人にね。だからそういうのを、そういうのこそ役所の方で、例えば、講師を招いて勉強会をすとか何かして、やはり、そういう人が中心になってこれから町をつくっていくと、役所の人金かけて何もかもつくっていく時代は過ぎたと思いますよ、私は。

会長

- ・NPOをだれが育てるのかについては、これはなかなか難しいところですけども。役所が企業を育てるというのも、ちょっとまずい気もするんですよね。基本的にはやっぱり大きな枠で言えば絶対邪魔だけはしないと、NPOがこれまでの規制なんかも含めて、それが少し緩めば、どんどんどんどん成長できるということであれば、役所の方は、ちょっと緩めていきたいというようなことがあると思うんですけどね。そのあたりは市民のエネルギーといいますかね、かかわっていることなので、一概には言えないんですけどね。

ほかにどうですか。

〇委員

- ・私はこの資料全般を読んで、ここの最初のはじめにというところの丸の四つ目ですか、市民と行政の新しい協働関係とこうあるんですが、市民と行政と行政間の

というような、こういう少し文言を入れていただければと思います。

- ・私実は転勤族であって、ここで11個目の県なんですけれども、田舎にも住んでたわけなんですけど、このぐらいの大きな町があると、ダムとか普通だったら一緒になってつくるんですね。例えば川西とどこかが。私は今、一庫ダムにいますが、一庫ダムの周りには実は兵庫県と大阪府が、上流と下流とに境が、貯水池の中も入っているんですけども。ここの何というのかな、川西の特徴の中には結局、上流の能勢の特徴でもあるし、猪名川町の特徴でもあるし、みんな同じような特徴を持つとられるんですけど。
- ・実は私、7月に盲腸を患って、病院に1カ月ぐらいパンクしちゃって入院しちゃったんですけど、こういう施設、公共施設はいろんな町の方が使うんだなということが入ってよくわかったんですよ。隣に住んでる人が全部川西市の人だけではなくて、恐らく宝塚とか伊丹、いろんなところに病院はあるんでしょうけど、いろんな方が猪名川を中心にたくさん住んでおられるから、いろんな施設が多分あるんだなと思うんですけど。
- ・これだけのいろんなテーマをやるには、ベースにやっぱり自治体そのものの財政というのが、きちっとやっぱり根本が健全でないといけないというのは私は思っていてまして、この基本計画の中で、やはりばばばとお金の出入りを見させてもらおうと、少しやはり大きなお金を補てんしてるところがあったり、立て続けにずっと入ってますから、それが基本の財政を少し削りこんでいってるなど。
- ・これから恐らく先、10年先それを掛け算すれば、恐らく政府の方針が出てきて、私実は道路の技術屋なんで、そういうインフラの方針をそういう目で見るといつか、前回申し上げたとおりですけども、それで見るとやっぱり元気なまちでいるためには、市の財政が健全でないといけないとこう思っています。
- ・周りの衛生都市を見れば名だたるといつか、有名な名前の都市もあったり、大きな病院なんかもあるので、学校もしかりだと思えます。子供さん方がこれから

どれだけの人数になるかわかりませんが、空きがあるというお話がありましたけど、もう少し融通ということをお考えになって。

- ・後ろに、ごみというのがありますけど、21年からごみの処理場が分解されるというふうにお聞きしていますが、その恐らく管理費というのもどちらにふれるのか、わかりませんが、その中でいうたらどこか、行政間というので、広域のやつは、皆さんで運営されているので、そういう意味では手を取り合ってやっておられると思うんですが、行政間でうまく赤字を減らしながら、これだけの子育て、教育、町の魅力とか生きがいづくりというような、例えばNPOを動かそうとしても各自治体のことを少し、こういうことをみんなでやりましょうと出していける基金みたいな、お金みたいなものがやっぱりないと。
- ・こんなことを言ったらあれですけど、先立つものが余り出てこないんですね。僕はそういう目でこれを見てました。やはり川西市が昭和40年代が8万人でしたか。今がちょうど倍です、人口が倍です。年間の人口の住民票を移動されてる数が、調べたんですが8,000人。10年たったら半分入れかわるというふうに理解しています。そういう意味においてはやはり近くの都市、ぐるっと逆に市役所から10キロ上流に半径をぐるぐるっと回れば、下の方では違う都市にも近い、違う都市の病院にも近いというようなそういう、何かもう少し集約、施設を集約することを前提にこれからの11月からの具体的なやつに、お話を出していかうかなというのをこのものを読んで感じました。

会長

- ・ありがとうございました。9回目の自治体経営のところに深くかかわるお話をしていたいたんですけれども、大変重要な。

副会長

- ・今の御意見ちょっと伺いたい。それは結局、川西市単独と広域行政のバランスを考えた方がいいということですか。

○委員

- ・ そうだと思いますね。確かに川西の魅力というのは、私は猪名川を中心として発達してきた文化だと思います。多田という、流域ですね。私らがちょうど一庫ダムで上も見、下も見る。皆さん、うちのお水を飲んでいただいていますから、西宮の人や尼崎の人が私のところに見学に来られるんですけど、そういう意味においては同じ水がめの水を飲んでいる、釜の飯を食ってる仲ではないんですけど、そういう仲との流域の共同体みたいに存在するんじゃないかというふうに思っています。
- ・ それが今言われたバランスというふうな中においては、流域の中に何個そういう施設があって、それをバランスよくみんな将来使い合っていくということもやっぱり視野に入れるべきではないかと思います。

副会長

- ・ 土木の分野では結構広域行政は考えざるを得ないというか、言われてますよね。

○委員

- ・ 特に昭和40年代ぐらいから特に水利用とか、そういうもので施設ができてきて、それは都市のスプロール化とともにそういう施設がふえてきたわけですが、今、更新時期にきているわけですよ、施設の更新時期に。それはお互いいろんなものを融通し合いながら少しコストを下げましょうというようなことを、人間も含めて。

副会長

- ・ だから流域広域行政みたいな、もっと福祉とかそういうのに広げたらいいみたいなことなんですね。

○委員

- ・ それで、やっぱりちょうど川西市もできて3、40年ぐらい、もとの人口から倍になるというのは大きなことですよね。施設がぱぱとできてきて、次の更新時

期とか、次の管理運営を転換しなくては行けないと。つまり赤字という意味ではないですけど、もう少し周りとうまく連携をとれば、自治体からも出ていくお金も少なくてもいいと思います。そうするとこちらの、今あった四つの中に少し出す余裕が出てくるのではないのでしょうか。

会長

- ・ いろいろ社会資本のメンテナンスをどういうふうに分担していくかと、一つはそうだと思うんですけども、もう一つは、例えばもう自治体の財政そのものが非常に厳しくなってますから、例えば自治体間が契約関係を結んで、新しい例えば、インフラを作っていくときに、スケールメリットを出していくというのは、これは大いに必要なことですよね。例えば自治体間の契約関係、企業と企業との関係のように契約関係で結ばれて、調整がうまくいけばかなり大規模なPFIというような手法も使うことができますし、そういう意味では自治体経営のところで大変重要な話しになるのではないのでしょうか。このあたりは行政の側がどこまで踏み出せるかというところとかかわっているんで、我々としても期待したいというふうにとどめておきたいと思いますが。
- ・ ほかにございますか。また、ちょっとどこに飛んでいただいても結構なんですけれども、とりあえずは、教育文化のあたりにおりますので、そのあたりで。

J 委員

- ・ ちょっと教育から離れますけれど。忘れてはならないことが一つあって、現在、現時点で思うんですけども、団塊の世代とかいろいろボランティアとかいうような話がありますよね。これね、いわば市は財政はないと。そのかわりに、ただでボランティアをしてもらおうというんでかなりやっぱりあるんですよ。
- ・ それをやはり住民たちがそれをひしひしとちょっと感じ始めて、前向きな人は頑張ろう。かわりにやってあげるやんと言う人もあるわけです。でもその反面、やっぱりお金にもならない。こずかいにもならないんで、まあいわば悪いけど市

の職員は給料をもらっているのに、私たちがそれを何でサポートせなあかんのや
という意見もやっぱりふえつつあるんですよ。そういう極端というか、はっきり
していますけど、ほかに、ちょっと今現時点で意外なことは、民生委員さんが切
りかえの時期で新しい人を探しているんですけど、うちの地域は特に半分ぐらい
かわりますので、ほとんど自治会長が今四苦八苦して、夜うろうろしてると思う
んですよ。というのは、なり手がないんですよ。いわばボランティアなんですね。
福祉、地域福祉のそのかなめになる方がなり手がいない。忙しいとか、生活だけ
もないし、そういうふうにやっぱり何でもかんでも人に、元気な人をつかまえて
利用するなら利用しちゃえと、してしまえという、やっぱりそういうふうなこと
が目につくときがあるんですよ、市のね。

- ・それは、私たちはやっぱりコミュニティとしては、それは、やっぱりそうじゃ
ないよとか、みんなでネットワークしようというふうな話をするんですけども、
NPOだったら助成金をもらって活動できるんです。ほとんどの普通の人がボラ
ンティアなんですよ、実際にね。やっぱりそこら辺はよくよく考えて人を使わな
いと、やっぱり、そのときにはもう素知らぬ、ぷいという形になるわけですけど
ね。そこら辺はやっぱり少しちょっと違うんじゃないかなということが私たちも
あって。
- ・活動する人はもういっぱい重複してるんですよ。Aさんも某所でよく会うんで
すけど。本当につぶれるぐらい、人がつぶれちゃうじゃないというぐらいやる
人はいっぱい重なってる。それだけやっぱりでもよく口の悪い人は、「あの人
は好きでやってるわ」というふうに言いますが、そうじゃなくて、やっぱり
福祉を考えてコミュニティを考えるとやっぱりそうなってくんですよ。
- ・できる範疇でやりましょうという形で引き受けていくと。やはりそれはみんな
がやってくれば一番楽なんです。でもそれをやっぱりちょっと市役所さんの
方でも、行政の方でもやっぱり人を扱うというのかな、これからの団塊であっ

ても、やっぱり扱いを間違うとみんな本当に素知らぬ、ぷいすると思うので、それはやっぱり忘れないと何でもかんでも皆ボランティアをしたいとは思ってないんです。

会長

・なかなか難しいデリケートな問題ですね、そこは。

I 委員

・まさにJさんおっしゃったように、私ども社協が抱えている問題もそうなんです。今NPOはある程度の財源をもらってやっている。我々社協は市の手の届かんところ、すき間を埋めなさいと。どうするんやと。社協の会員をふやして歩こうと、頭を下げて300円くださいというお願いをして歩いてます。今一生懸命歩いてます。

・ここにもちゃんと御指摘をいただいています。ボランティアが広がらない理由を考える。実現化しそうな案を社協がとめている。社協の改革をするということを書いてるね。そういうことでちょっと増えたんですけど、我々も行政の手の届かんところ、あるいはそのすき間を何とか社協の方で頑張る。精神的な助け合いで自助、共助、公助の間でやろうとやってるんですけど、やはり、これはやっぱり自助の後押しをするのが我々社協なんです。またその後押しをしてくれるのが公助になるということでない、それぞれが雪だるまをつくって三つころがしていったのでは、雪だるまは大きくならないというように私は考えます。その辺のところをこれから行政の方とも、社協の方ともいろいろ協力しながら話合って、どの辺で協力体制がとれるのか、これは、川西だけじゃなしに、これからの社会の大きな課題だと思います。

会長

・今、Jさんがおっしゃった地域のボランティアで、従来からやっている人たちの活動と、NPOを含めて、これから次々出てくるであろう新しい人たちの連

携というんですかね、これはやっぱり重要ですね。

- ・だから特定のところに負担が行ってしまうのではなくて、うまく調整しながら、先ほど点から面へとおっしゃいましたけれども、そういう広がりを持たないと、本当に一生懸命やっている人がつぶれてしまうということもあるかも知れませんね。それは非常に重要な課題ですね、やっぱりね。地域の厚みを持たすと。

副会長

- ・先ほどのC委員さんの御意見にもあったと思うんですが、よその都市ではNPOの方も行政の下請けじゃないというのがあって。ボランティアとNPOとですね、職員という方との位置づけをちゃんとしないと、いつまでも本当に頼ってしまうというのもちょっと報われないという。仕事もおんぶにだっこという、だんだん本当にその人ばかり集中していくという。その形もおかしいと思いますので、やはり本当に位置づけをどういうふうに考えるのかという基本的なところはちゃんとしておかないといけないと思いますね。

会長

- ・しばしば自治会、既存のそういう自治会組織、あるいは、その自治会に近い組織とNPOとの対立まではいかなくても、調整がうまくいかないというのはこれまでも議論があるんですけれども。それも含めてせっかく川西でこういう場で皆さん議論されてるわけです。ぜひとも、うまくつながりを作っていただいたり、関係性をつくっていただきたいですね。総合計画の中で何かそういうことが少しあればいいなという気はしますけどね。
- ・次に進んでもよろしいでしょうか。大分時間もたってきましたので。環境共生ですけれども、このあたりいかがでしょうか。

A委員

- ・教育を1点だけ、一応言っておかないと。教育という点では、今は非常に手をかけ過ぎるくらいに手をかけていると思います。教育熱心な親が少ないと言われて

はいますが、実は全然正反対であって、むしろみんな熱心過ぎるぐらい熱心で、手をかけ過ぎるぐらいかけているというのが今の実情やと思います。

- ・ シックスポケットと言われている、象徴的だと思うんですけども。今の教育は非常に後ろから押してる。子供を後ろから押す教育だと僕は思っています。昔は、その昔は、実は引っ張るような教育。むしろ待っている教育というか、ほうっている教育に近いような教育であったんじゃないかなと思ってて。
- ・ 今は非常に道路整備をして、後ろから、はい、こちらへ進みなさいと。そっと後ろから、ぐいぐいと親の意図する方向に押してやるというような今の教育じゃないのかなと思います。少しその辺の僕は親の代表である以上、親の意識を改革していくということがこれから一番の課題だろうと思います。教育熱心なのは熱心です。物すごく熱心です。教育にかける時間というのは非常に多くて、子供にかける時間も物すごく多くて、子供にかけるお金もすごいです。それだけに本当に我慢もしない。いとめもつけないんですね。というところなので、やっぱりこのところをうまく働きかけていくやり方というのをもっともっと考えていかないと、制度ですべて縛っていくというのはなかなか難しいことですので、その辺は本当に教育委員会という専門があるんですから、そことPTAでやったり、いろんな関連団体との連携というのはこれからもっともっと大切やなというふうに思っています。
- ・ 行政がそのまま、例えば学校に直接おろして行って、学校が教育していくというのは、子供は当然そうなんですが、親の教育まで、そこに負担を強いていくというのはなかなか厳しい。ただ、期待はしていきたいところではあるんですけども、親も一緒に教育してくれと。期待はしていきたいんだけど、実のところは協力していかなくあかんで、もっと、そういう関連団体に対する働きかけというのは必要だろうと思っています。教育に関する問題で言えば、やはりその辺のアウトソーシングまでは行かないんですけども、連携強化、それもうまく分けて連携

強化というのは必要だろうと思います。

会長

- ・国の問題でもあるわけで、大変なことになってますね。

A 委員

- ・ちょっと省庁までいよいよ合併するような話に、厚生労働省と文科省が同じ問題について、子供について予算が出てくるなんていうのは、実はこれ地域行政の受け皿ですから、子供課を無理やりつくらなければならないと。宝塚なんかは子供課をつくりましたね。伊丹もそうですし、川西はまだできてないですけども。
- ・結局、子供の放課後というのは福祉の対象であると。授業中までは教育の対象であるけれども、その後は福祉の対象になると。じゃあその子供たちに関するサポートはどうしていくのか。でも学校にいてるわけですよ。となると地域力を借りなければならない。じゃあその辺の制度についてはどうやっていくのか。今その辺の受け皿というのも、省庁間のセクショナリズムもそろそろ時代としては難しい。

会長

- ・難しいというか最悪やと。

A 委員

- ・その辺は、市役所の中もその昔、本荘さんと僕はよく話をしたことがあるんですが、年代別でも、ええん違うとか、窓口が。人の一生を預かる場所なら、じゃあ生まれた人がここ、次はここ、次はここ、次はここ、年齢別に進んでいくというようなのがあってもいいんじゃないかとかね。課というもののセクションというものの連携というのは、ますますこれから必要。

会長

- ・教育の議論をし始めると皆さん、多分考えを持っておられて、收拾がつかなくなるんじゃないかと。Aさんに座長をお願いしたくなるんですが。

環境共生にまいりましょうか。

(環境共生)

N委員

- ・最後の環境についてですけれども、私はちょっと美化推進協議会の会長をしていますので、年に春と秋に全市挙げてのクリーンアップの開催を行っているんですけど。再来年に広域のごみ処理施設ができるんで、これが一つの大きな節目の年だと思ってます。
- ・大変大きな税金をかけてつくり上げたごみ処理施設にとりあえず、市民が目を向けてほしいという願いがあるんですね。やっぱり美しくてきれいな町というのは本当に魅力的な町の一つじゃないかなというふうに思ってるんで、だれも市民一人ひとりがだれもが簡単にできることだと思ってるんで、そういう心がけをとりあえずこの2年間で植えつける、本当に非常に大事な時期を迎えてると言えると思います。
- ・年2回のクリーンアップをこれを4回にするとかという意見もありますので、全市を挙げて美しい川西をつくっていく大事な時期だと思います。それは十分目を向けていただきたいと思います。

会長

- ・美しい川西、美しい日本というのがありましたけれど。

副会長

- ・ちょっと余り直接的なことは。また、この環境の専門のところでやりたいと思うのですが。
- ・一つ、公園につきまして、公園が川西市の場合だとショウケースみたいになってないかなと思うんですよね。あるんですけども、利用が少ないし、ターゲットが何なのかというのがよくわからないとか。子供も何かスポーツもできないし、

そして公園の中で、公園に来て何かしたいんだけど、何かうろうろしながら戻らざるを得ないというか。ひなたぼっこも何かしにくいというふうな。

- ・ だけど、数としては一応ニュータウンをつくることで一応きちっとつくってきたみたいなのところがあって。利用はされてないというか。公園につきましては、もう少し目的とか利用を考えるべきだと。ごみ問題のところにもすごく関わり込んでしまうので、今はあれですけど。

C 委員

- ・ 一庫ダムの所長さんもずっと強調されてるんですけど、川西というのは猪名川といわゆる縦に、地形的に長いと。その中間を、真ん中を猪名川が流れていると。寺社仏閣も結構あるということが特徴だと言われておるんですけども、私も猪名川のところをずっとよく歩くんですよ。自動車が通ったら怖くて歩けないですよ。だから例えば自転車で通れるぐらいの、川西って割と勾配がきついから川の流れも結構きついんですよ。だから川の隣を歩いても、非常に感じがいいんですよ、流れがありますから。だからアユの問題とかという話も出てますけども、歩く道がないんですよ。
- ・ 寺社仏閣にしても駅に案内板も何もないわね。能勢電が走ってても能勢電に案内板も何もない。そういう自然の環境があるにもかかわらず、生かされてないというか、情報の伝達がうまくいっていないというのかね。だから、あるあるとは言っただけども、実際に歩いてみたら自動車がぱっと走って恐ろしくて歩けんとか、ましてや子供づれなんか歩けないとか。だからやはりいろいろ予算の関係とか国の問題との関係もあるんでしょうけども、やはり特徴を生かすということをもうちょっと、これはボランティアかどうかわかりませんが、もうちょっと何か道路でもこれ見たら割と川西ってのはいいとかそういう意見、生活道路と一般国道との問題、二通りあるんでしょうけど、やはりこういう川に沿った道とか、何かそういうのも考えていくべきじゃないのかな。川西がいいところがあるい

うたらずぐそこって手を挙げますよね。その割に全然利用されてない感じがしますね。

会長

- ・典型的な死蔵資源かもわからないね。

副会長

- ・だって、歴史と文化はくっついてますしね。

C 委員

- ・それでお寺もあるしね。多田神社っていう。この中にもたしか載ってたかな、多田神社で平家（源氏）祭りか何か。ダイエーのところを回るんじゃなしに、駅から多田神社まで行ったらどうだという意見もこの中に入っていましたよね。
- ・だから外にPRするんだったらそのぐらいのことをやるぐらいでないと、ちょこちょこっとそこら辺で回っているようなことで、川西はどこにあるんですかと聞かれても答えれんっていうそういうんじゃやっぱりいかんのでね。生かすべきものはあると思いますよ、だから。

I 委員

- ・済みません、猪名川河畔林というのは御存じだと思うんですけども、清和台からゴルフ橋まで。あそこに桜があります。エドヒガン桜。すばらしい桜があるんですね。これを何とか生かした遊歩道。ちょうど左岸を、川西の土地ですから、市のもんですから、それを昔は道があったんです。これを里山ボランティアが3年かけて、何人いるのかな、今。7、80人がいるかな、できてますよ。その方たちに、あそこをもっとツタを切って、ササを切って、歩けるようにしたらどうかという提案もしたりして実際動いてますけど、住民の方からポイ捨てで火がついたら、上にいる人間は大変だという反対もございました。やっとなんか、ええでということも何かちらほら聞くようになって、ここを何とかやはり川西の持っているすばらしい財産ですから、これを生かした、やはり一庫までぐらい行

くことができれば、今おっしゃる、Cさんおっしゃるようなすばらしい川西の名所というか、憩いの場所になると、これも思いますね。

副会長

- ・O委員さんにぜひ伺いたいんですが、流域の活動として猪名川をずっと守ろうと
していらっしゃる方がたくさんいらっしゃいますよね。そういう活動はいかがな
んでしょうか。

O委員

- ・いいと思いますね。よくクリーンアップでごみを拾っておられるんですけど、ご
みは捨てるものじゃなくて、捨てないもんだというふうに僕は基本的に思ってまし
て、幾らきれいにしても捨てる人もいるわけで。実はうちのダムにもたくさん捨
てられるんですよ。連休の後とか、それとかりサイクル法が施行された後とか、
何日かしていると。道に置いといてくれれば拾いやすいんですけど、隠したりす
るんですね、投げ込む人がいるんですよ。バイクなど。わざわざすごく大きなお
金を出して油を処理して上げなくちゃいけないような非常に悲しいことが起き
たりするんですよ。私どものところは逆に散歩される方にごみ袋をお渡しして、
持ってきたらうちで処分してあげますよというふうな、公の金で管理してますの
で、いずれは捨わなくてはいけないんで、それが逆に持ってきてもらえば、ど
こに持っていかなくてうちで処分したげるといようなそういう方向でさせてもら
ってます。でもやっぱり捨てないもんだという教育的なところもやっぱりきちっ
とやっていくべきだというふうに思ってます。

C委員

- ・たまに大きなごみを捨てていく場合もありますもんね。

O委員

- ・車を捨てていく。

C委員

・そんなケースがありますよね。

O 委員

・消火器をまいてるのもありますよ。消火器を撒いてれば指紋がとれないですから。犯罪ですよ。

A 委員

・だから消火器がとられるんや。コンビニの前には消火器が据えつけておくと、よくなるんですよ。犯罪に利用されてるのかな。

O 委員

・車の車体番号がありますから、そこを全部消して、捨てていくときにやっぱりあちこちさわってますから。

A 委員

・環境ごみというのはね、本当に捨てないのが一番ですよ。何もせずに実は川西っていいところだとするためには、「川西市民は、例えば県下で最もモラルの高いまちなんです」と、何かそういううたってしまって、逆にしばってしまって、何もお金をかけずに、でも少しいい気分になるような、そういうキャッチフレーズをうまく使ってくすぐっていく。人はやっぱり褒められることが一番いいなと常々思ってるので、うまくのせて、褒めて、いい気分になってもらって、胸を張ってもらって、実行していただくと。川西は非常にモラルの高いまちです。ごみが減量化されてますよとかね、そういうような何でもいいですわ。とりあえず阪神間の1位のをうまく利用して、そういう宣伝をしていって、逆にそういう意識を川西市民が持つことによって、川西市民であってよかったと思えるようなすり込み作業をたくさんしていくことで、実はどこかにうまくいい影響を与えていく可能性があるん違うかなと思います。

・情報発信、こういうごみ環境なんかは最たるものなんですよ。非常に目に見えやすいので、ここを一ついい例をうまく挙げながら、そういうのをうたったらど

うなんだろうかと。

会長

- ・ Aさんのしり馬に乗ると、ドイツのフライブルグのように、ありとあらゆる環境にかかわるビジネスが集まってきて、世界に名だたる都市となっていますよね。

副会長

- ・ ただ、フライブルグの話はちょっと、あれはね、そこはね、そうじゃないです。あそこは、非常に特殊なまちで、行政主導で学校とか割と特殊なところが集まってできている都市なんで、あれを例にして、なぜあれができないのかという議論はちょっと違うんですよね。

A 委員

- ・ いいもんはやっぱり目指していくといいと思うんですね。絶対そうでなくてはならないというものではないので、やはりいいぐあいにダムがありますよ。流域がありますよ。それは大いに利用すべき分だろうと思いますね。宣伝に使うべき必要なものでしょう。ホテルが飛びますよ、これは大いに宣伝に使えるでしょう。やはりそういったものを、水生生物もたくさんいますよ、本当に水辺で遊べる場所もありますよ、そうしたものをうまく宣伝をやっぱりしていく。
- ・ それがまちの財産だと全市民が知るところから、市民力が上がっていくというのはこれはいいことだろうと思うんですよね。だから共通認識のものを必ず一つ植えていく。ちょっとずつでいいから植え込んでいく。これがスキルアップにつながっていくん違うかなと。

会長

- ・ 今世界的にも都市のそういう整備のあり方を議論するとき、ベースとして環境をきちっと置いておかないと、もう通用しないみたいですよ。川西なんかもそういうのをベースに置きながら、一つのモデルを提案していくというのは良いと思いますけどね。

副会長

- ・そういうふうな潜在的な資源ってたくさんあるんですよね、川西独特のですね。
本当に猪名川に沿ってですね。

O 委員

- ・水面というのは大事なんで、非常に大きな水面なんで、前は何か水面はちょっと余り利用がされてなかったみたいなんで、いや自分の責任において水面を使うんだったら、ボートでも釣りでも何でもいいですよ。というふうにさせてもらってるし、ちょっとどこかで花火はいいですかと、いや、大きな花火ですよ。いいですかって、よそでもやっていますんで、どうぞって。
- ・新しいことでは水質の富栄養化が進んでるんで、ちょっと私、今年から空心菜を水上で栽培してて、浮き島で空芯菜に栄養をとらせて、空心菜は名物にならへんかなと。中華料理はちょっとこの前食べてみたんですけどおいしかったですけども。そういう意味ではそんな利用もできないかなという。いわゆる水面は畑だと。

C 委員

- ・一庫ダムはそういうボートなんかはいけるんですか。

O 委員

- ・いけますよ。

I 委員

- ・ボート、今でもやっていますか、祭りとか。

O 委員

- ・やっていますよ。一般の方が持ち込んで、原動機、いわゆるエンジンつき。

I 委員

- ・いや、団体に分けて競争するやつ。

O 委員

- ・レガッタはね、こちらの方が、青年会議所の方がやっておられましたけど、去年は一緒にキャンプをやりまして、その前までですね。ちょっと財政の面があって。

I 委員

- ・湖が汚れるとか、それが理由じゃないんですね。

O 委員

- ・違います。だってこくだけですから、汚れないです。今は電動のモーターであれば入ってもらって結構だという。

I 委員

- ・手づくりのいかだをつくってこいでやるやつ。

O 委員

- ・それは昔競争されて、それこそ青年会議所が。最近はちょっと財政の関係で。カヌーとかでぐるっと回られている方もいらっしゃいますし。

I 委員

- ・そういう一庫ダムを使った活性化というか、あるいは川西の発信というか。川を利用した発信というか。私以前、ほかに行ってちょっと勉強してきたんですけど、淡水魚の、県にお願いして淡水魚をあそこで水族館をつくったらどうやという話をしたんですけど、なかなか県がのってこなかったんですね。

O 委員

- ・養殖をするというのはやっぱり湖が汚れます。なぜかというとなえさをやるから。全部食べないんで、入れたら落ちていっちゃって、それは富栄養化の問題とかあって、それはやはり僕にどうですかと言ったら、それはノーですねと。

I 委員

- ・キャンプ場のところに淡水魚の水族館をつくって、猪名川に住んでる魚を全部集めようという考えだったんですがね、県がちょっとのってこなかった。

J 委員

・桜が多いですね、川西って。桜についてはどうなのでしょう。市のあれは桔梗になってますけども、木は桜ですか。やっぱり。うちの方の地域も桜があるんですけども、県のちょっと工事もやってる関係か、新しく植えた木がもうどんどん枯れまして、全部枯れちゃったんですね。古い木が結局、いわば樹木医という方がいらっしやいますよね。そういう方がもし市にあれば、ちょっと本当に直していただきたい木が多いんですけど、地道に自分たちではできないし、枯れる一方なんですよね。やっぱりそこら辺、もし木が本当に桜にしているとしたら、市が、もうちょっと樹木医とか何か、何とかメンテナンスが欲しいんですけど。今度木を植えるのに今悩んでまして、ぜひとも桜の木を植えたいなと思いますが、なかなか弱いんですね。

I 委員

・ソメイヨシノはせいぜい70年から80年。

O 委員

・一庫の流域なんですけど、人と自然の博物館の服部保という教授が、一庫の知明湖の周りは全部調べてもらったんですよ。いわゆる自然の財産という意味においてはエドヒガン。ソメイヨシノはエドヒガンと江戸時代に大島桜を掛け合わせてつくったハイブリッドですから、40年、50年ぐらいであれなんですけど、エドヒガンは長寿。100年、200年と。

J 委員

・それを分けていただけることはできるんですか。

O 委員

・去年、おとし、さきおとしとうちの方でエドヒガンを苗で育てて、今、知明湖の周りにずっと植えて、ソメイヨシノを逆に排除して、エドヒガンというこの固有種をやっぱり売りものに知明湖はしましようというふうに今植えているんですよ。これはもう3年間ずっとやってきてます。

J 委員

- ・それやったらできるだけそういうのをちょっとふやしていく方向にした方がいいですね。

O 委員

- ・240カ所で四百数十本ずらっとありますので、その位置はうちの方のパンフレットに位置を入れて、大ざっぱな位置ですよ。桜を大きいやつを持っていく人なんかはいないし、場所は出していいだろうということ。

C 委員

- ・植樹するのに例えば5,000円とか、1万円出して、その人の名前で植えて、その人が1年に何回かその木を見にいくとかね。結婚記念に植樹するとかね。そういうのをあちこち聞きますよね。だから役所でばっと植えるんじゃなしに、個人個人がそういう5,000円とか1万円とか、高い金額、もっと高いかもしれんけど。名前をちゃんとだれ寄贈というように。

O 委員

- ・うちらはそうです。一般の方と。能勢電鉄さんとエドヒガンを植えて、知明湖に花を咲かせましょうというハイキングをセットして、ぶら下げてあるんですよ。もともと知明湖に咲いてるエドヒガンの種からつくった苗なんで、最近いろいろDNAとか、よそから持ってきた云々の話もありますんで、数はそんなに多くないですけど、今までどうでしょうかね、ことしの3月に140本植えて、その前は300か400ぐらい。でも全部うまくいくわけではないですから、途中でだめになるものもありますし、そういうことを3年前からずっと続けています。

C 委員

- ・だから結婚式のときに植えるとか、そしたら離婚が減るかもしれない。入学とか卒業のとき、学校ではそういうのはやっていますけどね。そういうもので木を、清和台なんか桜並木、本当に立派な、あれ何年かかったか知りませんが。

○委員

- ・日本の大きな桜はほとんどエドヒガンですよ。ヒガンザクラですよ。

○委員

- ・だからそういうものをずっと計画的にやっていったら、結婚相談所あたりに寄付する人がおるんじゃないですか。

○委員

- ・ちなみに知明湖はそういう里山の水がめという位置において何か売り物になるものはないかというんでエドヒガンをうちも、水源地ビジョン協議会というのがあります、どうしていくかというんだったら、ここのこういう昔からあるエドヒガンにしましょうとか。ちなみにダムをつくる時に恐らくエドヒガンをたくさん水没させたはずなんですよ。そういう意味では新しい次の方々にやっぱりエドヒガンをつないで、罪滅ぼしというわけではないんですが、それはやっぱり財産として残していく。

○委員

- ・私この会議、3日目の、これにちょっと参加してございまして。今いろいろ出てるように共通的にですね。市側と、それから市民が役割分担ということですね。これが、それにかかわる問題というか、意見がたくさん出てました。まさに、そのとおりだということで、ほかのテーマにも共通しますけども、市民ができること、あるいは市から見てもやってもらわないかんこと、これを明確にすべきじゃないかなというのが一つありました。
- ・それから市側にとりましても、やはりこれはできます、これはできませんというのを明確にしていかないと、ほかの問題も同じだと思うんですね、経費の問題もございまして。何か全部意見は取り入れますと、できるだけことはやりますと言うんじゃ、基本計画自体がおかしな方へなろうと思いますから、これだけはやりますという形に、もう一度意見を各基本計画の章にもう一度振り分けて、や

っていった方がより簡単というか、適正なものになるんじゃないかと。

会長

- ・この審議会の役割、あり方というんですかね、位置づけともかかわっていると思うんですけど、ここで皆さんが発言して、これをやるべしと言って、行政がそれに、その事業にお金をつけてやるという性格の会議では、これはもともとないんですよ。やっぱり川西市全体の方向性をさまざまな立場の市民の皆さんで議論をしていただくと。その結果として、例えば具体的にはこんな事業もいいんじゃないかというところまではいけると思うんですけど、それができる、できないというのは、また別の議論だと思うんですよ。ですから、もちろんそういう議論をしてはいけないというのではなくて、こちらはこの事業も可能だろうというところまではいけるんですけども、それが行政にじゃあ答えを求めて、これはいける、いけないという、それはちょっとなかなか難しいですね。

副会長

- ・ただ、やるべきことの需要と供給がミスマッチということもあるんですよ。これはやるべきだと思って本当にやりたいと思っている人がいるのに、マッチしてないというのがあって、それをまた単独でやるのか、広域でやるのかというのもあるし、その役割分担がNPOなのか、個人なのか、行政なのか、その辺のことがごちゃごちゃになっているところがあるので、もう少しすっきり整理すれば前に進むこともあるかもしれないという、そういうところはちょっとやった方がいいかなと。

L 委員

- ・ちょっとI委員からも出ましたけども、参加してて、話をしてる印象としては、本当に川西市民を代表した意見を言っておられるのか、ちょっとおかしいんじゃないのかと、自分がおかしいかもしれませんよ。そういう意向もありましたから、これは反映させるとそのままじゃないでしょうから。ほかの市町との調整の結果

等も踏まえてやられる場合もありますけども。できるだけやりますというのが回答じゃなくて、これから優先順位をつけるなり、これだけはやりますかというような形の方が僕はいいんじゃないかと思う。

副会長

- ・ここに書いてあることは本当に全く主観的な意見を言いっ放しというようなところがあって、もう少し離れた目で客観的に整理してやらないと、せっかくの御意見がうまく生きてこないということもあります。そこらの辺の整理がもう少し必要だろうということだと思うんですが。まだ2回目なので。

会長

- ・次々回個別のテーマに入っていきますので、踏み込んだところもそのあたりで出てこようかと思うんですけどね。

H委員

- ・いいですか。ちょっと今後のやっぱり川西市の総合計画における環境共生というような切り口で、そのときに猪名川水系の自然と文化というのが非常に大きな柱になるということはこれも間違いないし、ぜひとも、そこを徹底的に市の方で素案をつくっていただきたいと思うんですけども。
- ・もう一方で、このワークショップの中に少しは出てるんですけども、もう一つは自動車交通の話をきっちり考えておく必要が、特に今後ニュータウンの高齢化の中で、公共交通にいかにかシフトしていくかということと、それからもう一つは現在、川西能勢口の周辺に駐車場がいっぱいありますよね。要するにみんな自動車で来ているということなんです。そういった構造を今後も引継いでいくのかどうかということについて。朝の7時から9時の間、物すごく通勤渋滞が起こっているということを、これはそれを今後どうするんだというようなことも含めて、自動車交通の見直しとその環境問題というのも非常に大きな柱になるはずなので、僕はそう思ってますので、素案をつくられるときにはこのところかなりよく考

えていただきたいと。

- ・それからもう1点は、最近全然議論になってないんですけども、川西市南部の、要するに大阪空港の騒音激甚地区で、エリアは物すごく減ったのかなと思うんですけども、いろいろ国が買い上げて行って、まだら場に空地ができてしまっているというようなところ、そういったものを今後環境共生の種として使っていくんだということも、やはり僕は川西らしさというか、川西の固有の課題として、今後、環境共生の中にやはり柱としてちょっと位置づけておいていただきたいなという気がしました。

会長

- ・ありがとうございます。

副会長

- ・両方とも環境共生のときにですね。

H委員

- ・だからそれをそこに入れないと、特にこの環境共生の中に川西の場合は入れていいんじゃないかなと思ったんです。つまり、猪名川水系の自然環境と文化環境で、それがメインとなると思うんです。なると思うんですが、そのことによって忘れられることがあるよということなんです。

会長

- ・そうやね、この1章から6章までの都市のそういう空間的な交通の問題とかは無いんですね。

H委員

- ・ないんですね。弱いんですね。

会長

- ・ありがとうございました。そのあたり事務局の方で御配慮いただいて、準備いただきたいと思います。

- ・快適安全、産業活力、これはもう同時に行きましょうか。重なっている部分もあるかと思いますが、そのあたりも皆さん、御自由に。
- ・川西の場合は産業活力はちょっと違うような気がしますけれども、個人的にはこれから非常に重要になってくる問題でもあろうかと。いかがですか。これまた余り御意見が出なかったBさん。

(快適安全) (産業活力)

B 委員

- ・今までの話の中で、やっぱり、もちろんですが、それぞれが窓口だったらすべてが一つに重なる部分があるわけなんですね。Aさんがおっしゃられてたリーダーというか、先頭に立って行く人が必要というのはよく分かります。私自身はやる人がいたらついて行きますというタイプなので、そういうどんどん引っ張っていきける人と団体とのつながりとか、そういうのをどうやっていけばよいのかなど。それを考えている間に話が進んでいってるという感じなんですけど。

会長

- ・リーダーの問題はやっぱりすべての項目に共通してる部分がありますよね。

E 委員

- ・産業活力という部分の先ほどの快適安全というところに関係あるのかもしれませんが、先ほども南地区の話が出ましたよね。商工会から出していただいているんですけども、私、土地家屋調査士という土地関係の専門職でして、例えば南地区にも言えることなんですけども、基本的に川西のいわゆる昔ながらの地形というのは、道も狭くて交通の便も非常に悪くて、不動産の評価というのは非常にやっぱり低いんですよ。ですからそういった中で先ほど南地区の関係だったらその中にまぜて、空き地の状態のうちに道路を広げてしまおうとか、狭隘事業なんですけど、を取り入れていくとか、いろんな手法は今後また紹介してくれるで

しょうからあえて今回、意見はないんですけども。そういったチャンスもあるところのまちづくりというか、インフラ整備のところですね。その辺を僕もちょっと聞いてみたいなと楽しみに今してるんですけども。

- ・産業活力というのはやはり商工業がメインになってくるんでしょうね。活力があるかないのか、それなりには、やってることはやっているのかなと。最近では先ほど言っていました市民と商売人さんといった方が市民に対してもいろんな提案ということで、「まちはカーニバル」というふうなイベントをさせていただいたんですけども、それは川西に從來から何もなかったものに、楽しげな、よそにはないようなというものを企画していただいたという、そういう提案というのをいろいろされてるとは思いますので。先ほどちらっとOさんが一庫の花火もちらっと話もおっしゃっていただいたのは、そういったことをやっぱり企画提案していたりするある程度の力があるのが、そういった商売人さんかなと思っておりまので、あとは我々も提案していくばかりでもなくて、こればかりだと元気がなくなってくるので、お互いに助け合いの心というんですかね、川西の市内には、こんないろんな事業所があるのよというのもこちらも頑張ってPRしていきますので、それを何とか見てみよう、聞いてみようというふうなスタンスをですね、市民にも持ってやっていかないといけないかなと。そういった部分で、今、川西市さんの方にはいろいろと御協力をいただいておりますので、またこれからだと思いますけれども。

会長

- ・ありがとうございます。

副会長

- ・ちょっと伺いたいんですけど、川西の駅前はまだ随分姿が変わったと思うんですね。と申しますのは、小売店が本当になくなってしまって、みんな大型店舗に変わっていききましたよね、駅前もですね。もう少し奥の方でも、結局、車があるこ

とが前提となってるような大型店ばかりですよ。そういうのはどうなんですか、川西市の活性化という関係で言えば。

E 委員

- ・大型店舗を持ってきたんですね。Aさんは御存じですよ。

A 委員

- ・中心市街地の活性化という観点で考えていかなあかんですね。大型店舗は、今は本当に1カ所にどかっと集めて、集約して、人を集めてくるスペースを確保しているわけですよ。
- ・ところが川西の駅前では物すごく複合というか、駅中心でものを考えてるようなところですから、阪急が出店したことによって非常に起爆剤として駅の周辺というのは活性化をしたわけですよ。ところが残念ながら、その川西の開発の仕方というのは再開発ですべて行ってきたので、その再開発が全部成功しているかという、実は点で行ってしまったがためになかなか面として生かされてないというのが今の現状やと思うんですね。
- ・だから電鉄を全部通してしまいました。これによって電鉄の駅の流動は物すごくいいんだけど、そこにじゃあ、お店がありますかと言ったら何もなし。渡り廊下だけがある。実はそこの人たちは何も駅のいわゆるお店、商圈というものには何も貢献もしないし、何の恩恵もない。だから駅周辺の開発の仕方の失敗はやっぱり大きくあるのかなと思います。
- ・ただ、だからといって、じゃあ駅周辺に駐車場がないのかと言ったときには実はあるんですよ。だから多分整備の仕方がね、と情報の提供の仕方と、それぞれの役割の提案の仕方というのがうまくいっているのかなと。それぞれがそれぞれで何とか全部自分のとこで何とかしようとしているがあまりに、すべてを殺してしまってる、そういう印象を受けてしまった。イオンもしかり、西友もしかりですよ。モザイク、それとベルフローラ、阪急百貨店というこれだけのマーケット

を持っているわけです。だからそれをうまく、例えば若年層はここだよと、高齢者はここがいいよ。そういう、うまくすみ分けを専門家が図っていけば、絶対に負けないマーケットをつくることは非常にたやすいと思うんですけども、イオンはイオンで何とかして西友やら阪急に勝たなければならないと、そういった役割を担って駅前に陣取っているがゆえに、いろんなものを入れてしまう。その辺の役割分担、セールスプレゼンテーションみたいなものがやっぱりあれば、もっともって川西は可能性を秘めているん違うかなと僕は思います。

I 委員

- ・今、H先生に御指摘いただいたんですけど、もともと基本的には中心街に駐車場があること自体が活性化の阻害になっておる。人間は歩いたらいいんですね。車で来るからいけない。ある市なんかは中心街は車は乗り入れ禁止と、歩けということになっているんですね。すると非常に活性化していく。だんだんだんだん店が戻ってくる。小さい小売店とかだんだんたくさん戻ってきている。
- ・その中心街は非常に活性化していますね。お祭りもできる。いろいろなことをやっています。だからそういうことをH先生が御指摘いただいたのかなと、そういう考え方も私の頭の中にも長くから、何キロかの範囲内を車を禁止と。そこへ車を捨てて、入ってくださいということも、新しいまちづくりの一つの方法かなと考えています。

H 委員

- ・もちろん、そういう考え方は当然裏にはあります。ただ、川西市の場合、問題は出発地の住宅地側の方が車で出ないとおりてこれないということはどうするんだという問題なんですね。結局、公共交通が、要するに能勢電沿線でも駅まで行くのにどうするのかという住宅地がありますし、それから西側の幹線道路なんかは完全に車になっていますよね。そういうことが今後10年、20年後に高齢化していったら、自家用車のままならなくなった状況の中で、いずれ公共交通に頼らざ

るを得ない、あるいは、ずっと閉じこもりきりになるかですね。

- ・そういうことになる中で、それと幹線道路や駅前に自動車が集積し過ぎているということが、先ほどの環境共生という切り口からいうと非常に問題ですよということを申し上げています。
- ・だから自動車交通というものを総合計画の中で、交通計画というのはきつとどこかにあるはずなんですけれども、そのときの切り口として、環境共生の中にもきっちり入れとくことによって、それが必要ではないかと。当然後の快適安全、産業活力とも関係するのは言うまでもないですけど。

C 委員

- ・ちょっと私ピント外れかもしれないんですけど、先ほど大型店の話が出たんで、ちょっと川西市の人にお聞きしたいんですけどね。ダイエーとかイズミヤとかいろんな大型店舗が出てますわね。ああいう場合の税金と川西市との関係というのはどうなっていますかね。いわゆる所得税とか固定資産税とかありますけども、その事業費というんですか、もうけた金はどこへ行ってるんですかね。川西市に直接還元されるようなことになってんですか。

事務局

- ・事業所税につきましては、本社機能を有しているところと、いわゆる支店というのでは当然取り扱いが違うわけですね。

C 委員

- ・本社に皆吸収されるんですか。

事務局

- ・吸収と言いますか、税金の本体はそっちに入りますが、うちに所在地がある場合はその従業員数等に応じた税金が賦課されるという形になります。

C 委員

- ・人数に応じてもらえるんですか。

事務局

- ・ はい。当然固定資産税はいただきますけど。

C 委員

- ・ 結局、地元の商店街がさびれて全部そっちに持っていかれて、そのもうけた金がどこへ行くのかと。川西市にやっぱり還元されているんですか。

事務局

- ・ そうですね、そういう意味では。

会長

- ・ そのこのところはしかし微妙なわけですね。

E 委員

- ・ 先ほどの再開発の話の続きなんですけれども、仮にそれが失敗であったとしたら、結局、車でしか行かなくて、人の動きがないということをおっしゃりたいということですかね。もしそうだとしたら今度もまた同じく、それからまた北の方に行ったところでも何らかの多くの更地がたくさんあるところがありますので、そういうところに人の流れがどうなっていくかということも、川西の人のチャンスなんでしょうね。
- ・ それと今、川西の町中が駐車場が多い話なんですけども、これも逆の発想なのかもしれないですけども、結局今あそこを更地にしてるよりは駐車場にしてるしかないという状況なんですけどね。だから、あそこにテナントビルをこしらえてもだれも来ないですし、店やっても来ないですし、じゃあ駐車場で何とか賄っていかうというのが多分地主さんの考えだと思うんですね。

会長

- ・ この中心市街地活性化の問題は、これまた尽きぬ議論でして、それこそ世界中が悩んでるといえるか、いろんなもっと大胆な事例もあるんですけども、実際には、日本の場合は所有権が大変強いのですから。例えば地域再生でも先頭を走っていると

言われている高松の丸亀町なんかですと、商店街の人たちが一体化して取り組んでいて、さらにそこにいろんな仕組みを作り上げています。100数十店舗が一つの組織として動くような仕組みを今つくりつつありますけど、あれなんかは、ちょっと例外的ですね。

- ・それとこの前できましたけれども、本当にうまく行くのかどうか、ちょっと率直なところ危ないという気もしましたけども、いずれにしましてもこれもまた大変重要な、川西市にとっても重要な課題ではあると思いますね。
- ・ただ、今回の総合計画が後期でですね。全体像はかなりつくられてますので、H先生がおっしゃった都市のそういう俯瞰構造のところまでどこまで踏み込めるのかというのが私自身も分からないところではあります。これもまたちょっと事務局の方で議論のレベルというんですかね、このあたりまでは議論して、含めていけるのかということを持っておいていただきたいですね。

では、環境共生のあたりに。

H委員

- ・産業活力の話をしてよろしいか。

会長

- ・はい、どうぞ。

H委員

- ・観光というのは位置づけられているんですかね。例えば川西市の観光呼び込み客数とか。というのは何が言いたいかというと、今まで川西というのは、今まで高度経済成長以降、住宅開発系の市街地を中心とした位置づけですよ。恐らく。ところが一方で多田銀山という、最近歴史的資源の発掘というのがですね、それからまた猪名川水系の環境共生という自然を中心としたということで、そろそろ観光という柱、川西にとっての観光は何かという、総合計画だったら考えてもいかなと思うんですね。ただそれは広域から大量集客するような観光では当然違

うと思うんですけれども、この町にとって観光という視点で産業活力というのを検討した場合、どういう可能性があるのかも。

会長

- ・先ほどCさんもそのようなことを、それこそ自然ということからもおっしゃったけれども。

I 委員

- ・フィルムコミッションという発想でまちづくり、まち文化のいわゆる河内篤郎さんたちと一緒にやったんですけど、どうしても、お隣の有名なスミレの花の町がありまして。それがやはり、宝塚、伊丹、川西、三田、猪名川町、これが組んで何とかこれを売り込もうと。あるいは大河ドラマに売り込みたいということで一生懸命やったんですけど、どうしても我が町はスミレの花というのが目立ってしまって、空中分解をしてしまったんですけどね。私はやはり大河ドラマに、この間義経のときに何としても売り込みたいというんで神戸までいってもらったんですけど、なかなかこれ難しい。だけど本来はやはり猪名川の川を軸にした、そういったいわゆる縄文時代から今までずっと面々と続いた町というのはここしかない。井戸知事にも縁をつなげと、石切山と五月山をつなげと、これは火打を縁にすることやと。そこには何で姫路だけしかないんやと、歴史文化博物館は兵庫県で姫路しかないと、何で阪神間になんないんやということで、かなり井戸知事にもくっついてかかって、知事も考えとくとは約束はしてくれたんですけど、なかなか考えてくれないんですけど。その候補地は川西しかないよと。16万市民代表をしようんやと。歴史文化博物館をつくるなら川西市しかないんよと、文化の発祥は川西だと一生懸命訴えたんですけど、なかなか難しいですね。だけど本当は先生おっしゃるように売り込みたいです。エドヒガンもこれも売り込みたい。

会長

- ・いろんな形はあろうかと思うんですけども、ツーリズムというのは、これから川

西にとって重要な要素になると思われます。

Pさん、まだ御発言がなかったので。

P委員

- ・まず何でチェーン店しか今残ってないかというのが、すごい川西の場合は不思議で、最近新しい道路が駅の東側にできた、あそこは新しくお店が、飲食のお店がたくさんできて、非常に行ってみようかなと思ってるんですけど、特に食べ物屋さんに関して言えば、非常に再開発のビルの中に入っているチェーン店がどうしても主になっていると。これは町のつくりが結果としては再開発のビルばかりになってしまったというのがあるのかもわからないですけども。
- ・それともう一つは、例えば西友の北、西側とかが特にそうなんですけど、住宅地がすぐ、スーパーの横がすぐ住宅地になって、店が余り多分つくれないのかなと思うんです。生活していると、ああいう大きなビルに入っている店というのは基本的には早い時間に閉まるし、どうしても、どこに行っても同じ店なんで飽きてくるし、できたらそういう店が本当はつくれるようなまちづくりの誘導というの必要なのかなということも思うんですけど。
- ・それで逆に池田は、大型店舗ははっきり言ってなく、最近魅力ないんですけど、点々と魅力ある食べ物屋さんというのがあって、商業全体として池田はあかのかもわかんないですけど、非常にそういった点では魅力があるのかなと。川西は有名なファクトリーナカタとかは並んでたりしますが、ラーメン屋さんでもチェーン店しかないし、そういうのは非常に寂しいですね。

M委員

- ・市街地活性化の関係というのは、宝塚は「スマレのまち」という話が出ましたけども、あそこは非常に苦勞をされてまして、各駅の方にいろいろそういったターミナルをつくったもんですから、今、再活性化しようとされてますけど、そういう意味で能勢口の場合にはある種交通問題という逆の面もありますけども、そこ

に集中しているというのはある一つの価値であると思います。その辺を生かすという観点も必要なのかなと思います。

会長

- ・ありがとうございます。

Q 委員

- ・私はむしろこちらの個々の問題で、今日は皆さんのお話をお聞きしてて、すばり、皆さん核心についておっしゃっていますし、概念的な問題ばかりが先行していた都市計画審議会と比べてキーワードがたくさんありますので、それをもっと現実的にみていけばおもしろいかなと思います。教育の方もちょっと言いたかったんですけども、ちょっとかなり細かい議論になりますので、今回はちょっと。

会長

- ・最後に。

副会長

- ・やっぱり猪名川は非常に中心としてキーワードとして挙げられるということと、やっぱり交通、H先生がおっしゃったように交通とか環境、観光とかもあるんですけど、結局この川西市の場合、上から下か、下から上かでも、観光を活性化すると、今度また環境問題の方で渋滞が起こってしまうとか、そういうことがあって、そういうことをどうやって総合的にバランスさせるかとか。
- ・NPOとボランティアと行政とか、一般市民の方の位置づけとか役割分担とか、そういうことを割とすっきりさせていけば何かうまくいくんじゃないかなというような感じがしてきたんですけども。

会長

- ・その楽観的な意見を頭に焼きつけて第3回に望むということにしましょう。
- それでは事務局。

事務局

- ・ それでは皆さん夜遅くまで、いろいろ御熱心に本当に、きょうはこの2回目というのには結果としてよかったなというふうに感じております。きょうのこの議論の一応様子でいけば、それぞれ個々の分野に入ってきたときに、非常に白熱した議論をしていただけるんじゃないかというふうに期待しております。
- ・ 次回以降の日程なんですけれども、冒頭ちょっと申しましたけれども、非常にタイトな日程になっておりまして、特に11月につきましては、変な話、この土日の開催も含めさせていただいて、日程照会の方をさせていただくかもわかりませんが、とにかく皆さん、できるだけ寄っていただけるような形で日程調整をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

J 委員

- ・ 10月11月の土日が集中して祭りがあるんで。

事務局

- ・ そうですね。

J 委員

- ・ 体力がもつように。

会長

- ・ よろしいですか。それでは第2回はこれで終了ということですよ。皆さん、どうも御協力ありがとうございました。

川西市総合計画審議会（第2回）出席者名簿 （五十音順）

氏名	職業等	選出区分	備考
秋田 修一	川西市PTA連合会長	市民団体等代表	
綾 田紀子	市民	市民公募	
牛田 正岩	市民	市民公募	
越田 雅仁	川西市商工会理事	市民団体等代表	
加藤 憲正	兵庫県立大学経済学部教授	学識経験者	会長
加藤 忠哉	川西市消防団員	市民団体等代表	
角野 幸博	関西学院大学総合政策学部教授	学識経験者	
菅原 巖	川西市社会福祉協議会長	市民団体等代表	
土肥 千生子	川西市コミュニティ協議会連合会理事	市民団体等代表	
中野 加都子	神戸山手大学人文学部教授	学識経験者	副会長
中村 証暹	市民	市民公募	
西岡 正博	阪神北摂民局企画調整部企画調整・市町担当客事	関係行政機関職員	
石部 藩	川西市美化運動推進協議会長	市民団体等代表	
藤川 寛	一庫夕△管理所長	関係行政機関職員	
山本 徳弘	市民	市民公募	
和田 聡子	大阪学院大学経済学部准教授	学識経験者	

平成19年度川西市総合計画審議会（第2回）会議次第

日時：平成19年9月3日（月）
午後6時30分～
場所：川西市役所7階 大議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

（1）後期基本計画策定スケジュール案について【資料1】

（2）後期基本計画策定に向けてのワークショップ開催結果について【資料2】

（3）その他

4 閉 会